

令和

6

年度版

はとよしのまはる



2

愛知教育文化振興会
三河教育研究会

もくじ

I	一年生の復習	2
一	言葉の単位	2
二	品詞の分類	3
II	自立語	4
一	活用する自立語	4
一	動詞	4
二	形容詞	6
三	形容動詞	7
二	活用しない自立語	8
一	名詞	8
二	副詞	12
三	連体詞	14
四	接続詞	16
五	感動詞	17
III	用言の活用	18
一	動詞	18
一	動詞の活用	18
二	動詞の活用の種類	20
二	形容詞・形容動詞	23
一	形容詞・形容動詞の活用	23
IV	付属語	23
一	付属語の種類	27
一	助動詞	27
二	助詞	33
V	類義語・対義語・多義語	38
一	類義語	38
二	対義語	38
三	多義語	38
VI	敬語	39
一	敬語	39
一	丁寧語	39
二	尊敬語	40
三	謙讓語	41

「ことばのきまり」の特色と使い方

「ことばのきまり」は、授業や教科書に合わせて、自主的に学習を進めることができるように編集してあります。この本のしくみと使い方を説明しますので、よく読んで学習を進めていきましょう。

一 この本のしくみ

「ことばのきまり」は、およそ次のように構成されています。

(一) 例を示して説明するところ

・ 例文を示して説明します。

・ 必要に応じて、詳しく説明します。

(二) 学習を確かめよう

・ 解説を受けて、基本的な問題を解きます。

(三) 練習問題に取り組もう

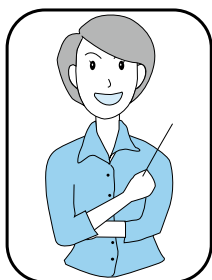
① 基本問題をさらに解き、学習の定着を図ります。

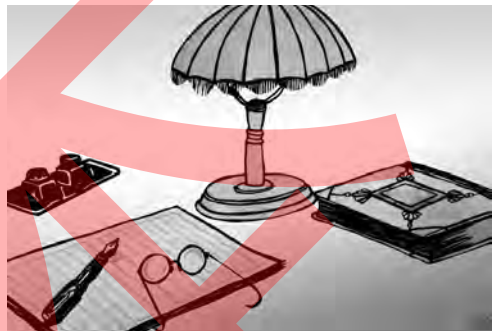
② 基本問題よりやや難しい発展問題を解きます。

※この構成は、学年や単元によって異なりますが、基本的な学習を終えて練習問題に進むことになっています。

二 登場人物のアドバイス

「ことばのきまり」には、次の二人の人物が登場します。それぞれのアドバイスをしながら、自主的に学習を進めましょう。





『ことばのきまり2』を学ぶにあたって

— 優れた言葉の使い手になろう —

コンビニエンスストアで支払いをするとき、「千円からお預かりします」と言われ、違和感を覚えるという話があります。言葉は、生きているものであり、時代や環境によって使い方が変わるものではありますが、耳障りに感じる人も多いのではないのでしょうか。だれにとっても心地よい、正しく美しい日本語の使い手となれるように文法を学んでいきましょう。

『ことばのきまり2』では、一年生の復習をIで行い、それを

もとに、VIまでの内容を学習します。

IIでは、三つの活用する自立語と五つの活用しない自立語について学習します。

言葉の意味からだけでなく、品詞としてのきまりを知ることにより正確に、感性鋭く、言葉を理解することができます。

例えば、動詞では、「自転車がこわれた。(自動詞)」は壊れた原因が自分にはないことが分かり、それに対して、「自転車をこわした。(他動詞)」では、作用の原因が作用側にあることを表現しています。自動詞か他動詞かを知ること、他の例でも、より的確に動詞を使うことができるようになるでしょう。

IIIでは、用言の活用について、IVでは、語句と語句の関係を示し、気持ちや判断を表す付属語について、Vでは、類義語・対義語・多義語について、VIでは、敬語についての学習を進めていきます。

類義語等の知識を深めることで、比較したり、複数の視点で考えたりしながら、実践的に使える言葉の幅が広がることでしよう。敬語は、相手への心遣いを表し、人と人との関係を結ぶ重要な言葉です。学習を通して、言葉を使う際の相手への意識も磨くことになるでしょう。

学習の見通しをもち、実感して分かるまで練習し、言葉の知識を整理して、みなさんが、優れた言葉の使い手になることを願っています。

I 一年生の復習

一言葉の単位

文とは

いろいろな出来事や事柄を、伝えたり、尋ねたり、行動を誘いかけたりする言葉のまとまりを、**文**といいます。
文の区切りは、文字で書く場合は「。(句点)」で示するのが普通です。話すときは、そこで息を切って、少し休むことで表します。

文節とは

発音や意味のうえで、不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりを**文節**といいます。
このように考えると、文は全て一つ以上の文節からできています。ですから、文節は文を組み立てる単位であるといえます。

次の二つの文を文節に区切ってみましょう。

- a 赤い花がきれいに咲く。 「赤い 花が きれいに 咲く。」
- b 大きな夕日がゆつくりと沈みます。「大きな 夕日が ゆつくりと 沈みます。」

意味もわかり、息の切り方も自然なひと区切りが文節です。文節に区切るときは、文中に「ね」「さ」などを入れて意味が通じるかどうかを考えて判断しましょう。

文節どうしの関係とは

- ① 「何が」―「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」の関係
↓主・述の関係
- ② ある文節が他の文節を詳しくしている関係
↓修飾・被修飾の関係
- ③ 接続語がつなぐ文と文との関係や、後に続く文節との関係
↓接続の関係
- ④ 独立語と、それ以外の文節との関係
↓独立の関係

単語とは

文節をさらに細かく分け、それ以上分けると言葉としての意味がなくなるか、言葉としての役割を果たさなくなるところまで区切った言葉の最小単位を、**単語**といいます。

冷たい 水が 谷を 流れた。

右の例文は、四つの文節からできています。これを、さらに細かく分けてみましょう。

冷たい 水 が 谷 を 流れ た。

となります。つまり、七つの単語に分かれます。

二 品詞の分類

単語は、文法上の性質によって、十品詞にまとめられます。文法上の性質には、次のようなものがあげられます。

- ・ 自立語か、付属語か。
 - ・ 文中で語の形が変化する(活用する)か、変化しない(活用しない)か。
 - ・ 文中でどの文の成分(主語・述語・修飾語・接続語・独立語)になるか。
 - ・ 体言(名詞)か、用言(動詞・形容詞・形容動詞)か。
- ※品詞分類表参照(巻末)
- ・ どんな形や働きをもつか。

自立語と付属語とは

大きな 桃 が 川 を 流れ た。

「大きな」の文節は、一つの単語からできており、意味をもっています。「桃が」「川を」「流れた」の文節は、「桃」「川」「流れ」の単語に意味があり、「が」「を」「た」は、それらの単語について文節を作っています。

「大きな」のように、単独で文節を作ることのできる単語、また、「桃」「川」「流れ」のように、文節の初めにくる単語を、**自立語**とい

います。自立語は一文節に必ず一つあります。「が」「を」「た」のように、単独で文節を作ることができず、常に自立語のあとに付いて、自立語と一緒に文節を作る単語を、**付属語**とい

学習を確かめよう

① 次の——線部の単語を、A自立語とB付属語に区別し、記号で答えな

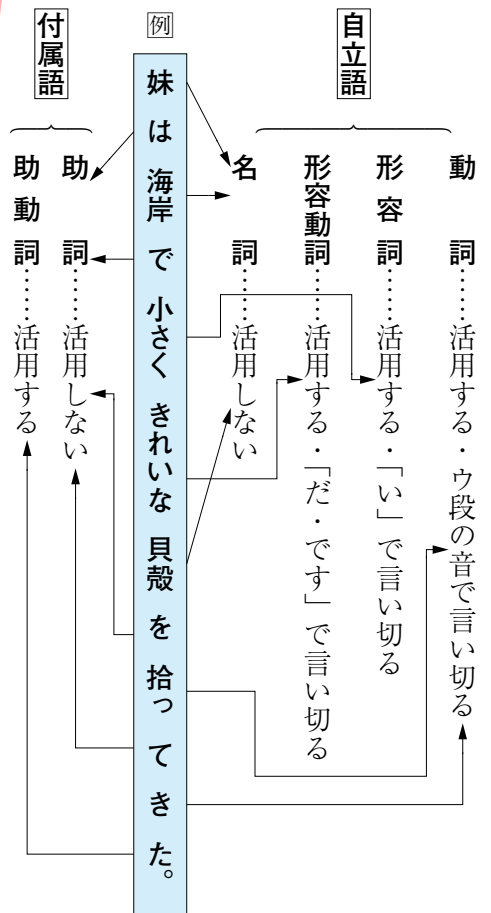
- さい。
- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 駅に行く。 | (2) よく考える。 |
| (3) 私のだ。 | (4) 明日のことです。 |
| (5) 考えます。 | (6) この本か。 |
| (7) うん、いいよ。 | (8) 雪のようだ。 |

② 次の文を例にならって単語に分け、自立語か付属語かを書きなさい。

例 彼一は一よく一歌一を一歌一っ一て一いる。

自付 自付 自付 自付 自

- (1) 太陽が沈むと気温が下がる。
- (2) 父はアメリカで早速仕事を始めた。
- (3) 昨日の大雨で花壇はひどく水浸しになってしまった。



Ⅱ 自立語

一 活用する自立語

(一) 動詞

- ・ 手紙を書く。 (動作)
- ・ 背が伸びる。 (変化)
- ・ 猫がいる。 (存在)

朝早く起きる。 洗たく物が乾く。 本がある。

動詞とは

・ 自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」一段の音になります。
 ・ 物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

いろいろな動詞

① 自動詞

- ・ 人が集まる。 ・ 気分が変わる。
- 例文の「集まる」「変わる」のように、それ自身の動作や変化を表し、「(何が) どうなる」かを表す動詞を自動詞といいます。

② 他動詞

- ・ 人を集める。 ・ 気分を変える。
- 例文の「集める」「変える」のように、他への動作や変化を表し、「(何を) どうする」かを表す動詞を他動詞といいます。

学習のねらい

- ◇ 「自立語」にはどのような種類があるのかを知る。
- ◇ 「品詞」にはそれぞれどのような性質や働きがあるのかを理解し、それぞれの品詞を見分けられるようにする。

学習を確かめよう

① 次の単語の中から動詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|------|
| ア 探す | イ 静かだ | ウ 勉強する | エ そして | オ 笑う |
| カ 今日 | キ 泣く | ク 浮かぶ | ケ 美しい | コ する |
| サ 震える | シ 悪い | ス しばらく | セ 激しい | ソ いる |

② 次の動詞について、例にならって自動詞か他動詞かを区別し、自動詞ならそれに対する他動詞を、他動詞なら自動詞を書きなさい。

- | | | |
|---------|-----------------------|-------|
| 例 見る | 「他」 | 「見える」 |
| (1) 消える | 「 <u> </u> 」 | () |
| (2) 始める | 「 <u> </u> 」 | () |
| (3) 離す | 「 <u> </u> 」 | () |
| (4) 育つ | 「 <u> </u> 」 | () |

全ての動詞に自動詞と他動詞の対応があるわけではありません。



③ 可能動詞

・この本なら僕にでも読める。

例文の「読める」は、「読むことができる」の意味の動詞です。このように「〜できる」という可能の意味がある動詞を**可能動詞**といいます。可能動詞は、五段活用の動詞をもとにした下一段活用の動詞です。命令形はありません。（動詞の活用についてはP18以降で学習します）

- ・読む（五段）——読める（下一段）
- ・歩く（五段）——歩ける（下一段）

④ 補助動詞（形式動詞）

・咲いている。 ・行つてみる。

例文の「いる」「みる」のように、本来の「いる（存在する）」「見る」などの意味が薄れ、上の言葉に意味を補う動詞を**補助動詞（形式動詞）**といいます。補助動詞はひらがな書きを原則とします。このほかに、「ある・あげる・もらう・やる・くれる・しまう・おく」などがあります。

⑤ 複合動詞

名詞・動詞・形容詞の語幹（詳しくはP19参照）が付いて、一つの動詞を作ったものを**複合動詞**といいます。

- ・名 づける ・勉強 する（名詞+動詞）
- ・結び 付く（動詞+動詞）
- ・近 寄る（形容詞の語幹+動詞）

活用する言葉の変化しない部分を語幹といいます。



（詳しくはP19参照）

③ 次の動詞を可能動詞に直しなさい。

例 買う （ 買える ）

- (1) 書く （ ） (2) 話す （ ）
- (3) 飛ぶ （ ） (4) 泳ぐ （ ）

④ 次の文の補助動詞（形式動詞）に——線を引きなさい。

- (1) 友達への手紙を書いている。
- (2) 話を聞いてみると、意外に複雑だった。
- (3) テストのために、日ごろから勉強しておく。
- (4) 分からないことを教えてあげる。

⑤ 次の文の複合動詞に——線を引きなさい。

- (1) 山の中で遊び回る。
- (2) 細胞の仕組みを研究する学者。
- (3) 手紙に宛名を書き忘れる。
- (4) みんなでアイデアを出し合う。
- (5) 長引く入院に嫌気がさした。
- (6) 突然の物音に身構える。

(二) 形容詞

- ・海はとても広がった。
 - ・彼は優しい。
 - ・暗い夜道を歩く。
 - ・砂糖で甘く煮る。
- 例文の「広かっ」「暗い」「優しい」「甘く」が形容詞です。
- (状態) (性質)

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

補助形容詞 (形式形容詞)

- a その公園にはブランコがない。(形容詞)
 - b その公園は広くない。(補助形容詞)
- aの「ない」は「無い」という意味ですが、bの「ない」は「広く」に打ち消しの意味を添えています。形容詞本来の意味を失い、上の文節を助け、意味を補う役割をもった形容詞を補助形容詞 (形式形容詞) といいます。「ない」のほかに「ほしい」や、「よい」などがあります。

補助形容詞の見分け方

- ・「ない」の上に「は」が入る。(形容詞)
 - ・時間がない。↓ ×時間がはない。(形容詞)
 - ・早くない。↓ ○早くはない。(補助形容詞)
 - ・静かでない。↓ ○静かではない。(補助形容詞)
 - ・「くて」+補助形容詞の形で使われる。(形容詞)
 - ・梅干しは体によい。(形容詞) もっと時間がほしい。(形容詞)
 - ・教科書を見てよい。(補助形容詞) もっとがんばってほしい。(補助形容詞)
- ※補助形容詞は、ひらがな書きを原則とします。

補助形容詞の前に「くて」「は」「も」を入れることができます。たり、「くて…」でつながったりしていますね。



学習を確かめよう

① 次の単語の中から形容詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| ア 涼しい | イ 考える | ウ 静かだ | エ 暖かい |
| オ 走る | カ 感じる | キ 終わり | ク 美しく |
| ケ 戦い | コ 細やかな | カ 楽しい | シ おはよう |

② 次の——線部が補助形容詞であるものを一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- | | | |
|-----|--------------------------|-----|
| (1) | ア 願いを聞き入れて、仲間の一人に入れてほしい。 | () |
| | イ こんなに暑くては、水かお茶がほしい。 | () |
| | ウ 水分補給するときは、塩分もほしい。 | () |
| | エ ほしかった本が売り切れてしまった。 | () |
| (2) | ア 彼女は非の打ちどころのない母親である。 | () |
| | イ 東京に比べるとあまり寒くない。 | () |
| | ウ これぐらいしか弟を喜ばせる方法がなかった。 | () |
| | エ あの手紙は、今はもうない。 | () |
| (3) | ア 夏休みの課題は計画的にやるのがよい。 | () |
| | イ 体調が悪いのなら、体育の授業を見学してよい。 | () |
| | ウ 困ったときには相談した方がよい。 | () |
| | エ 心に浮かんだことをそのまま詩に表せばよい。 | () |

(三) 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。 (状態)
- ・彼はほがらかだ。 (性質)

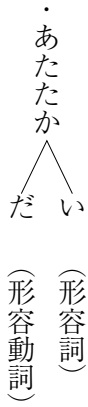
例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

形容動詞の語幹

- ア 語幹だけで言い切ることがあります。(「だ」を省略した形)
 - ・まあ、きれい。
 - ・これは、立派。
- イ 語幹だけを名詞として用いることがあります。
 - ・小さな親切が、感謝された。
- ウ 形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。



形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているのですが、区別はほとんどありませんが、活用のしかた (P 23 と P 24 参照) に違いがあるので、独立した品詞として考えます。

学習を確かめよう

① 次の語句の中から形容動詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| ア 親切だ | イ 中学生だ | ウ 立派だ | エ おそろしく |
| オ 鮮やかだ | カ 小さな | キ まるで | ク 困難な |
| ケ 嵐だ | コ ゆっくり | サ のどかな | シ いろいろな |

② 次の——線部が形容動詞であるものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 彼は穏やかな性格なので、親しまれている。
- イ 昨日は雨だったから、今日は涼しい。
- ウ 大きな声であいさつをすると気持ちがよい。

形容動詞と名詞の見分け方

形容動詞……「どんなだ」を表す

この町は平和だ (形容動詞の終止形)

名詞……「何だ」を表す

この町に必要なのは平和だ (名詞+助動詞の「だ」)

見分けた言葉の直前に「とても」などを入れると、区別できることが多いです。「とても」が入る場合は形容動詞、入れると自然になるものは「名詞+だ」です。



③ 固有名詞……人名・地名・国名・書名など、特定の物事の名前を表す。

・私は夏目漱石の「坊っちゃん」を四国の旅行中に読んだ。

・日本を代表する古典文学の一つに「源氏物語」がある。

④ 数詞……物の数量や順序を表す。数字を含む。

・三個で百円のお菓子をかう。

・合唱コンクールで第一位となる。

・一袋が百グラムの砂糖を三つも買って来た。

・三対二で勝った。

⑤ 形式名詞……本来の意味が薄れ、常に連体修飾語を付けて使われる。

・ちょうど今着いたところですよ。

・彼は、来るはずだ。

・彼女の言ったとおりにになった。

・ぼやぼやしているうちに、通り過ぎてしまった。

・あなたも行ったほうがいいでしょう。



形式名詞には上にある語の意味を補う働きがあります。実質的な意味をもたないので、**ひらがな**で書きます。「こと、とき、もの、ところ」などがあります。

③ 次の——線部の名詞の種類を次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 普通名詞 イ 代名詞 ウ 固有名詞 エ 数詞 オ 形式名詞

(1) 佐藤さんはどこにでもいる少女の一人だった。

(2) 信号機は赤と青と黄色の三色が順番に変わります。

(3) 「万葉集」は日本で最も古い歌集です。

(4) 今、社会のテスト問題を解いていたところです。

(5) まちがいというものは、ないほうがよい。

(6) 彼は今朝三時に家を出発し、富士山に登った。

(7) 豊橋駅から東海道本線の快速に乗って旅に出た。



2 その他

成り立ちによって次のように種類分けできる普通名詞もあります。

① 転成名詞……他の品詞から変化し、転じてできた名詞

- ・川の 流れが ゆるやかだ。
(動詞 流れる↓流れ)
- ・彼女の 美しさに みとれた。
(形容詞 美しい↓美しさ)
- ・この 穏やかさは 何だ。
(形容動詞 穏やかだ↓穏やかさ)

② 複合名詞……二つ以上の単語が合わさって一語になったもの。

- ・春風 本箱 ガラス窓 夕日
(名詞+名詞)
- ・月見 山登り 夢占い
(名詞+動詞)
- ・歓迎会 聞き手 主催者
(動詞+名詞)
- ・食べ残し 泣き笑い
(動詞+動詞)
- ・浅瀬 大潮 高値 若葉
(形容詞+名詞)
- ・苦笑い 小走り 早咲き
(形容詞+動詞)
- ・白黒 遠浅
(形容詞+形容詞)

③ 接頭語・接尾語がついた名詞……一語として扱う。

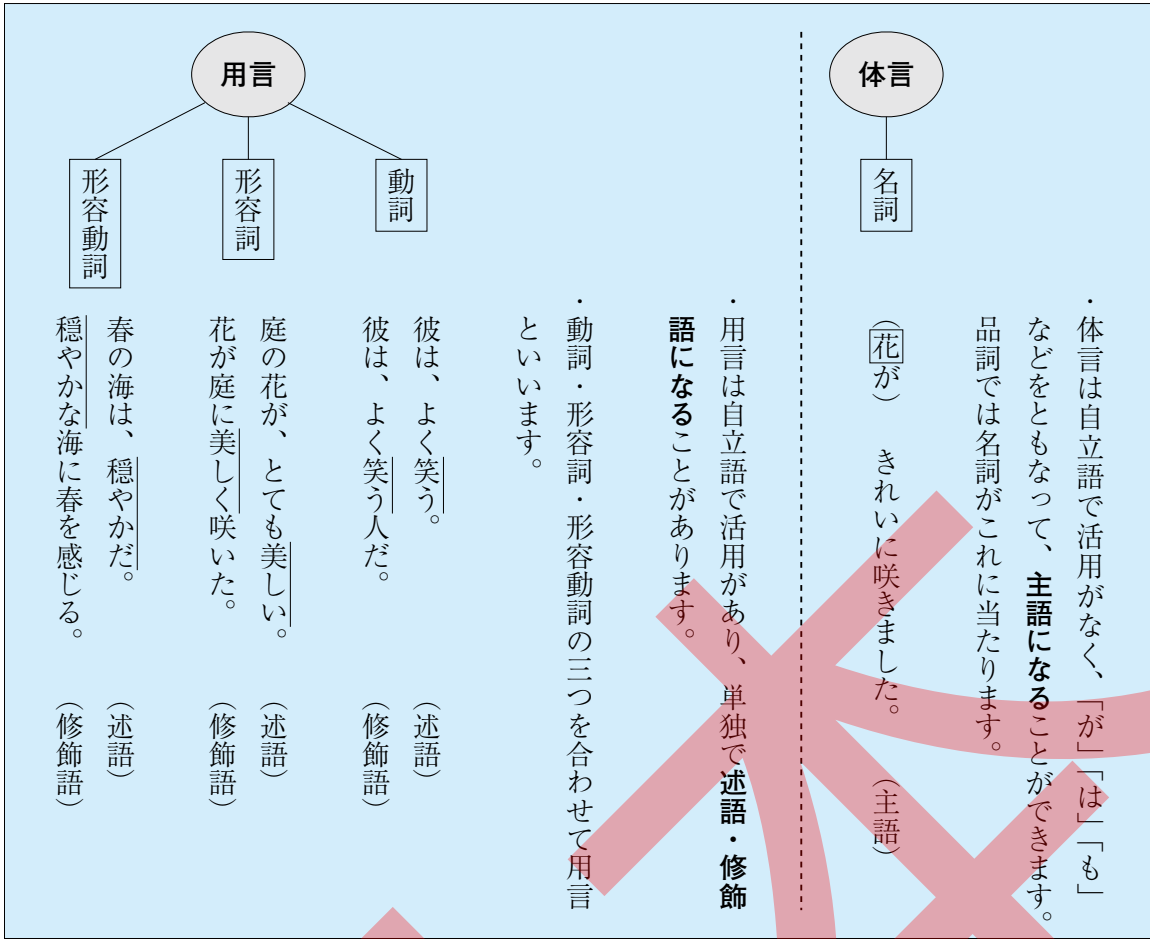
- ・ご飯 お茶 御意見 ど根性
(接頭語+名詞)
- ・先生方 母さん 仲間たち
(名詞+接尾語)

④ 次の——線を引いた転成名詞のものと言葉を()の中に書きなさい。

- (1) あの体操選手は、体の動きが実にしなやかだ。()
- (2) 彼の体は怒りに震えていた。()
- (3) 満月の夜の明るさは、想像以上だった。()
- (4) 私たちは若さと情熱でがんばりとおした。()
- (5) 私は、春の季節の穏やかさが好きだ。()
- (6) 彼のまじめさは町中の評判だ。()

⑤ 次の文から複合名詞を選び、()の中に書きなさい。

- (1) 妹は最近、星占いに凝っている。()
- (2) テレビで紹介されたかき氷のお店を訪ねてみた。()
- (3) 母の趣味はスイーツの食べ歩きだ。()
- (4) 冬休みは家族でスキーに行く予定だ。()
- (5) 海外に赴任する兄の土産話を聞くのが楽しみだ。()
- (6) 父は健康のために毎日早起きをしている。()



⑥ 次の名詞のグループから、種類の違うものをつづつ見つけ、記号に○をつけなさい。(5)は——線部)

- (1) ア パソコン イ ノート ウ プール エ エジソン
- (2) ア 優勝 イ 一位 ウ 大会 エ 野球
- (3) ア 太平洋 イ 日本 ウ 大陸 エ 北海道
- (4) ア 歴史 イ 社会 ウ 教科書 エ 鎌倉時代
- (5) ア 願いごと イ 書くもの ウ 見ること エ 言うとおり
- (6) ア 父 イ 弟 ウ 彼 エ お母さん

指示語・指示する語をまとめて「こそあど言葉」といい、次のものがあります。



こう	この	これ ここ こちら	こ	品詞
そう	その	それ そこ そちら	そ	
ああ	あの	あれ あそこ あちら	あ	
どう	どの	どれ どこ どちら	ど	
				副詞
				連体詞
				名詞

(二) 副詞

学習を確かめよう 

- ・牛がのんびり歩いている。
 - ・鈴虫がリーンリーンと鳴く。
 - ・少し待ってください。
 - ・優勝したなんて、まるで夢のようだ。
- 例文の「のんびり」「リーンリーンと」「少し」「まるで」が副詞です。

副詞とは

・自立語で、活用がありません。
・様子・状態・程度を表し、主として用言を修飾します。

1 副詞の性質

- a 新しい 校舎が ついに 完成する。 動詞
- b 全校集会は とても なごやかだ。 形容動詞
- aの「ついに」という副詞は「完成する」という動詞を修飾しています。
また、bの「とても」は「なごやかだ」という形容動詞を修飾しています。
このように用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾することを連用修飾
といいます。副詞は、主に用言を修飾する連用修飾語になる言葉です。
(例外もあります。P13の3を参照)

2 副詞の種類

- 副詞は、働きの上から次のように分けられます。
- ア 状態の副詞(「どのように」という状態を表す)
- ・いなかの道はしばらく続いた。

① 次の文から副詞を一つずつ抜き出し、下の()の中に書きなさい。

- (1) まず失敗することもあるまい。 ()
- (2) 今日もやはり来た。 ()
- (3) 漂流中はさぞつらかったことだろう。 ()
- (4) 大きな石を軽々と持ち上げた。 ()
- (5) 打球がぐんぐん伸びる。 ()

② 次の文から、副詞を一つずつ見つけて——線を引き、()の中にア「状態」、イ「程度」、ウ「呼応」の分類を記号で答えなさい。

- (1) 私は、ゆつたり旅行を楽しんだ。 ()
- (2) おそらく彼はやってくるだろう。 ()
- (3) 駅で私はずいぶん待った。 ()
- (4) 彼は目をきらきらさせながら歩いてきた。 ()
- (5) 彼は、ずっと昔からの友達だ。 ()

・洪水はたちまち家を流した。

・子供が笛をプープー吹く。

・猫がニャーニャーと鳴く。

・花びらがひらひら散っている。

※擬音語・擬声語・擬態語は、全て状態の副詞に含まれます。

イ 程度の副詞（「どのくらい」という程度を表す）

・今日のスピードはかなり速い。

・もっと速く走ろう。

・作家では夏目漱石がいちばん好きだ。

ウ 呼応の副詞（下に決まった言い方がくる）

・まるで海のような湖だ。

・全然おもしろくない話だ。



呼応の副詞は、**陳述の副詞**とも呼びます。副詞の後ろにいつも決まった言葉を要求します。

3 用言以外を修飾する副詞

副詞は用言だけでなく、場所・方向・時間を表す体言や副詞を修飾することもあります。

a 休日の 学校は とても 静かだ。

b 魚が とても たくさん 釣れた。

a 救急車を すく 呼べ。

b すく 先の アパートへ 引っ越した。

(用言を修飾)

(副詞を修飾)

(用言を修飾)

(名詞を修飾)

③ 次の文の——線部の言葉に注意して、() の中にあてはまる言葉を後ろの「 」の中から選んで書きなさい。

- (1) 明日はたぶん晴れる () 。
- (2) まさか負けることはある () 。
- (3) たとえ負け () 、全力でがんばろう。
- (4) 最近雨がまったく降ら () 。
- (5) もし雨が降らなかつ () 遠足へ行く。
「だろう・ても・ない・たら・まい」

④ 次の文の——線部の語について、副詞には「ア」、形容詞には「イ」、形容動詞には「ウ」とそれぞれの語の横に記号で書きなさい。

- (1) 海岸を美しくしたいと思い、毎日こつこつと、ごみを拾い続けた。 () ()
- (2) にぎやかな街を歩いていると、僕の心もほんわかと温かくなった。 () ()
- (3) 乗組員たちは、たちまち小舟に乗り込み、どんどん沖へ出ていった。 () ()

形容詞・形容動詞と副詞の見分け方

連体形「—い」「—な」の形を作ってみる。

- ・友達と楽しく話す。 (形容詞「楽しい」の連用形)
- ・楽しく () ↓ ○楽しい・×楽しな 「—い」ができる⇨形容詞
- ・友達と愉快に話す。 (形容動詞「愉快だ」の連用形)
- ・愉快に () ↓ ×愉快的・○愉快な 「—な」ができる⇨形容動詞
- ・友達とにこのこと話す。 (副詞「にこのこと」)
- ・にこのこと () ↓ ×にこのことい・×にこのことな

どちらでもない⇨副詞

(三) 連体詞

- ・ある日のことです。
 - ・いろいろな花が咲いている。
 - ・あれがわが家です。
 - ・大きな川が流れている。
- 例文の「ある」「いろいろな」「わが」「大きな」が、連体詞です。

連体詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・連体修飾語にしかありません。

1 連体詞の性質

あの ^{名詞} 人が ^{名詞} 山田さんです。

大きな ^{名詞} 家を ^{名詞} 建てる。

二つの文で共通しているのは、どちらも「人」「家」という名詞を修飾していることです。このように体言(名詞)を修飾することを連体修飾といいます。連体詞は、その名のとおり、すぐ下の体言を修飾する連体修飾語になる言葉です。

連体詞には、次のようなタイプがあります。

〈形〉	〈語例〉
a「ただ」の形	たいした とんだ たった
b「の」の形	この その あの どの かの 例の ほんの
c「る」の形	ある さる きたる あらゆる いわゆる
d「な」の形	大きな 小さな いろんな おかしな
e「が」の形	わが

「た・だ・の・る・な・が」
(織田信長)と覚えると覚えやすいよ。



※例外として「あらぬ」のようなものもあります。

学習を確かめよう

① 次のア～シの単語の中から連体詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|------|-------|--------|--------|
| ア この | イ 明るい | ウ 元気な | エ いわゆる |
| オ あれ | カ 大きな | キ もっと | ク めっきり |
| ケ わが | コ つまり | サ たいした | シ あらゆる |

② 次の——線部の連体詞が修飾している体言を書きなさい。

(1) この道を^①ずっとまっすぐ行けば、わが^②母校に着きます。

() ()

(2) 話^①があらぬ方向に進んでしまった。

()

(3) 大きな木の下で、仲よく遊びましょう。

()

③ 次の文から連体詞を一つずつ抜き出し、下の()の中に書きなさい。

い。

(1) きたる二十日に体育大会が行われる。

()

(2) 届かないとは、おかしな話だ。

()

(3) どの人に行ってもらおうか。

()

(4) これくらいならたいしたことはない。

()

(5) ある朝、私は決心した。

()

2 連体詞と他の品詞との識別

① 「ある」の識別

- ・ある田舎町のできごとだった。
- ・彼は経済力のある人だ。

連体詞
動詞

「ある」には、**連体詞と動詞**があります。識別のしかたは、次のとおりです。

① 連体詞……体言を修飾する連体修飾語で、活用しない。

② 動詞……「存在する」意味で使われ、活用する。

※動詞の場合は「ない」に置き換えられます。

② 「大きな」と「大きい」の識別

- ・大きな木のある庭。
- ・大きい木のある庭。

連体詞
形容詞

「大きな」と「大きい」は、右の例文のように同じ意味で使われます。しかし、「大きい」は**形容詞**で活用し（P23参照）、「大きな」は**連体詞**で活用しません。同様に、次の言葉についても、連体詞と形容詞の区別をします。

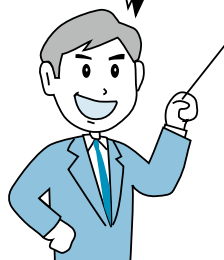
- ・小さな（連体詞）
- ・おかしな（連体詞）

小さい（形容詞）
おかしい（形容詞）

④ 次の——線部の中から連体詞を選び、記号で答えなさい。

- ア さる十五日、花火大会が行われた。 ()
- イ 今朝は、穏やかな日になった。 ()
- ウ 私は小さい犬が欲しい。 ()
- エ そんなおかしい話は聞いたことがない。 ()

「穏やかな」の言い切る形は、どうなるでしょう。言い切る形が「くだ」となる言葉は、形容動詞ですよ。



⑤ 次の——線部の単語について、それぞれ品詞名を書きなさい。

- (1) その博物館には、たいへん珍しい標本がある。
- (2) 将来、いろいろな国へ行ってみたいと思う。
- (3) あまり細かいことを言うと、人から嫌われるよ。
- (4) 街角である人に道を尋ねられた。

- (1) () (2) ()
- (3) () (4) ()

(四) 接続詞

- ・ 学校へ行き、それから図書館へ行く。
 - ・ 彼女は出かけた。しかし、私は家にいた。
- 例文の「それから」「しかし」が接続詞です。

接続詞とは

- ・ 自立語で、活用がありません。
- ・ それだけで接続語になります。

接続詞は前後の文や語をつなぐ働きをする単語で、次のような種類があります。

接続詞の種類

種類	働き	接続詞
順接	前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。	それで・そこで・すると・したがって・それゆえ・ゆえに・だから
逆説	前に述べたこととは逆になることが後にくる。	しかし・だが・けれども・だけでも・ところが・が・それでも
並列・累加	前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。	そして・また・それから・および・なお・さらに・しかも
対比・選択	前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。	または・あるいは・もしくは・それとも・いっぽう
説明・補足	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	つまり・すなわち・ただし・なぜなら・例えば
転換	前に述べたことと話題を変える。	さて・ところで・では・ときに



学習を確かめよう

① 次の——線部は、どんな種類の接続詞か。あとの□から選び、記号で答えなさい。

- マラソンはつらい。だが、走り終わった後の気分は実にいい。()
- この用紙は、ボールペンまたは鉛筆を使って書きなさい。()
- 多数決の結果、杉山君の案が選ばれました。それでは、次の議題に移ります。()
- 昨日、ひなが一羽かえった。そして、今日、また一羽がかえった。()
- 今日は天気がいい。だから、遠足に行く。()
- 私は、早く家に帰らなければならない。なぜなら、習いごとがあるからだ。()

ア 順接	イ 逆接	ウ 並列・累加
エ 対比・選択	オ 説明・補足	カ 転換

(五) 感動詞

・まあ、きれいな花だこと。

「まあ」のように、心が動いたときに思わず出る言葉があります。このような感動や呼びかけを表す言葉を感動詞と呼びます。

感動詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・主語、述語、修飾語、接続語とならず、単独で独立語になります。

しかし、感動を表す言葉だけが感動詞ではありません。感動詞には、次に示すような種類があります。

応答

はい、こちらは鈴木です。

いや、その道は違うよ。

呼びかけ

おい、こちらへ来い。

もしもし、鈴木さんのお宅ですか。

感動

ああ、すばらしい景色だ。

おや、何か変だぞ。

挨拶

こんにちは、ごきげんいかがですか。

さようなら、お元気で。



挨拶は感動詞です。

感動詞は文の初めにくることが多いですよ。

学習を確かめよう

① 次の文から感動詞を見つけて——線を引き、それがあとの□のどれにあたるかを選び、記号で答えなさい。

- ほら、見てごらん。きれいな夕焼けだよ。 ()
- いいえ、私は鈴木ではありません。 ()
- 弟は手を振って叫んだ。「バイバイ。」 ()
- ねえ、宿題を終わらせたら遊びに行こうよ。 ()
- おや、あなたは佐藤さんではありませんか。 ()

ア 応答 イ 呼びかけ ウ 感動 エ 挨拶

② 次の () にあてはまる語をあとの□から選び、記号で答えなさい。

- ()、お弁当を忘れてしまった。
- 用意はいいですね。()、始めましょう。
- ()、そこで何をしているんですか。
- ()、ちゃんと受け取りました。

ア はい イ もしもし ウ さあ エ あっ

Ⅲ 用言の活用

学習のねらい

◇ それぞれの「用言」はどのように活用するのかを理解する。

一 動詞

・手紙を書く。 朝早く起きる。 (動作)
 ・背が伸びる。 洗たく物が乾く。 (変化)
 ・猫がいる。 本がある。 (存在)
 例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

動詞とは

・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
 ・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

動詞と、次に学習する形容詞・形容動詞をあわせて用言といえます。

(一) 動詞の活用

読む

まだその本を読(ま)ない。
 僕は本を読(み)ます。
 彼も本を読(む)。
 よく本を読(む)人である。
 本をよく読(め)ば知識が広がる。
 たくさんの本を読(め)。
 たくさん本を読(も)う。

動詞は、右の例文のように後に続く言葉や、文中での働きによって、単語の終わりの()部分が「ま・み・む・め・も」のように規則的に変化します。これを活用といえます。活用の仕方は動詞によって異なります。

学習を確かめよう

① 次の——線部の動詞を、言い切る形に直しなさい。

(1) 机の上に置いたはずの本が見つからない。()

(2) 昨日彼に会ったときに、「明日は早く来いよ。」と言われた。()

(3) 「よく学び、よく遊べ」が祖父の口癖であった。

② 次に示す単語を活用させて、()の中に適切な言葉をひらがなで書きなさい。ただし、*は命令する形で書きなさい。

(1) 吹く

・夜に口笛を吹()ない。

・私は音楽会でトランペットを吹()ます。

・僕は、毎年お祭りで笛を吹()。

・楽器を吹()ときは扉を閉めよう。

・風が吹()ば桶屋がもうかる。

*よく指揮を見て吹()。

・みんなで一緒にリコーダーを吹()う。

(2) 起きる

・時間になっても弟はまだ起()ない。

・母はいつも早く起()ます。

・僕は六時に起()。

・早く起()ときは調子がいい。

・早く起()ば、余裕がもてる。

*早く起()。

1 語幹と語尾

動詞をいろいろな活用させたとき、常に変化しない部分を語幹といい、変化する部分を活用語尾といいます。

2 活用形

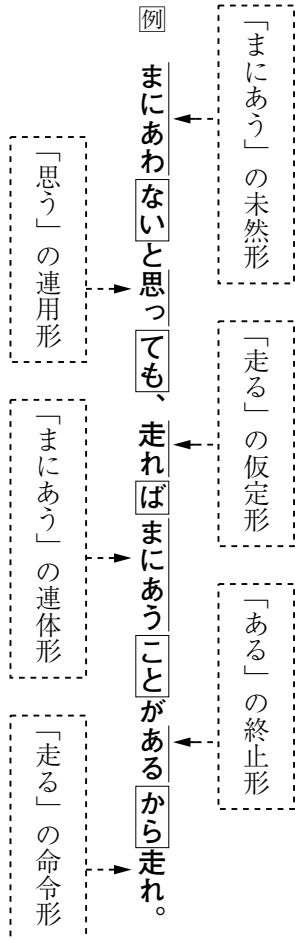
活用によって変化した単語の形を活用形といいます。動詞の活用形は、あとに続く形や言い切る形により、次の六つに分けられます。

「話す（はなす）」の活用

活用形	語幹	活用語尾
未然形	はな	さ
連用形	はな	し
終止形	はな	す
連体形	はな	す
仮定形	はな	ば
命令形	はな	せ

主な続き方（下に続く言葉）

ない(ぬ)・う・よう・れる・られる・せる・させる
 用言・ます・た(だ)・て(で)・、・たい・ながら・ても
 言い切る形・と・から・が・けれど
 体言・ので・のに
 ば(もし)ば
 命令して言い切る形



(3) 受ける

- ・相談を受（ ）ない。
- ・相談を受（ ）ます。

・親友から進路の相談を受（ ）。

・時折、相談を受（ ）ことがあった。

・相談を受（ ）ば、気安く応じた。

* 誠実な態度で受（ ）。

(4) 来る

・時間になっても（ ）ない。

・彼は必ず（ ）ます。

・約束の場所に彼が（ ）。

・彼が（ ）ころには、暗くなってしまうだろう。

・刑事が（ ）ば事件が解決する。

* 早くこちらに（ ）。

(5) 運動する

・雨の日は運動（ ）ない。

・運動（ ）ぬ日はない。

・十分運動（ ）せる。

・しっかり運動（ ）てください。

・今日はしっかり運動（ ）。

・運動（ ）ときは、水分の補給をしっかりとしよう。

・運動（ ）ば、気持ちがいい。

* しっかり運動（ ）。

3 次の——線部の動詞の活用形を（ ）に書きなさい。

(1) 新聞を見れば、試合の結果がわかる。 () 形

(2) 犬を飼うことを、父が許してくれた。 () 形

(3) まだ見ぬわが子への愛を詩につづった。 () 形

(4) 強風でも、親鳥はえさを求めて飛ぶ。 () 形

「来る」「する」は、特殊な活用のしかたをするので、気を付けてくださいね。



(二) 動詞の活用の種類

日本語のかなを、その音をもとにして並べた図を五十音図と呼びます。この図の縦の並びを行(ぎょう)といい、横の並びを段(だん)といいます。

動詞の活用のしかたは、この五十音図をもとに、次の五種類に分けられます。

行段	ア行	カ行	サ行	タ行	ナ行
イ段	あ	か	さ	た	な
ウ段	い	き	し	ち	に
エ段	う	く	す	つ	ぬ
オ段	え	け	せ	て	ね
	お	こ	そ	と	の

1 五段活用(五段)

五十音図のア・イ・ウ・エ・オの五つの段に沿って変化します。例えば、「吹く」は(カキケコ)で、活用するので五段活用といいます。左の図のように、活用形をまとめて一つの表にしたものを活用表といいます。

五段	活用の種類		活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	基本形	主な続き方							
吹く	ふ	語幹		ない・ぬ う・よう れる・れる る・る	ます た(だ) て(で)	。	ーとき ので	ーば	命令の意味で 言い切る
	こ	か							
	い	き							
	く								
	け								
	け								

五段活用だけにある音便(おんびん)

五段活用(サ行以外)の連用形は、「た(だ)・て(で)・たり(だり)」が付くとき、発音しやすいように音が変化する場合があります。これを音便といいます。

- ・イ音便……「く・ぐ」などで終わる動詞 ※例外もあります
- ・促音便……「う・つ・る」などで終わる動詞
- ・撥音便……「む・ぬ・ぶ」などで終わる動詞

学習を確かめよう

① 次の五段活用の動詞の活用表を上表にならってひらがなで書いて完成させなさい。

基本形	活用の種類		活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	語幹	主な続き方							
置く				ない・ぬ う・よう れる・れる る・る	ます た(だ) て(で)	。	ーとき ので	ーば	命令の意味で 言い切る
飛ぶ									
読む									
走る									
従う									

② 次の線部の文節を音便に注意して正しく直しなさい。

- 知らせを聞きて、私はすっかりあわてた。()
- 決勝戦を勝ちて、優勝したいものだ。()
- 封筒から手紙を出して、すぐに読みた。()

2 上二段活用(上二段)

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ上にある「イ段」の音で活用します。

3 下二段活用(下二段)

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ下にある「エ段」の音で活用します。

4 力行変格活用(力変)

他には類のない特別な活用をするので、力行変格活用(力変)といいます。カ変の動詞は「来る」の一語だけです。「来る」は語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

5 サ行変格活用(サ変)

サ行変格活用も、もともと「する」の一語だけです。漢語や外来語に「する」が複合した場合(複合動詞)も、サ変の動詞になります。

漢語+「する」……勉強する・運動する

外来語+「する」……スケッチする・メモする

サ変の動詞は語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

活用の種類	基本形	活用形		終止形	連体形	仮定形	命令形
		主な 続き方	未然形				
上二段	信じる	しん	じ	じる	じる	じれ	じろ
下二段	考える	かんが	え	える	える	えれ	えろ
力行変格	来る	こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ行変格	する	○	せし	する	する	すれ	せよ

※サ変の未然形「さ」には「れる」「せる」が続きます。

3 次の動詞の活用表を上表にならってひらがなで書いて完成させなさい。

活用の種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
上二段	生きる							
上二段	見る	(み)						
下二段	助ける							
下二段	寝る	(ね)						
力行変格	来る	○						
サ行変格	する	○						

※「見る」や「寝る」のように、上二段・下二段の動詞には、語幹と活用語尾が区別できないものもあります。

活用の種類の見分け方

① 力行変格活用
……「来る」の一語だけ。

② サ行変格活用
……「する」と「する」

③ 動詞の未然形に接続する「ない」を付けたときの、活用語尾で見分けます。そのすぐ前の音に目を向けます。

ア	書	か	ない
イ	起	き	ない
ウ		く	
エ	受	け	ない
オ		こ	

五段 上二段 下二段



基本問題

① 次の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

(五段・上一段・下一段・カ変・サ変の略称でよい)

(1) 兄は希望の高校へ進学する。

(2) ピッチャーが投げるカーブを打ち込んで勝った。

(3) 背広を着た紳士が向こうから来る。

(4) そのくらいの本は、読もうと思えば読める。

② 次の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

(1) 野山を歩けば、気持ちもさわやかになる。

(2) 太陽の光を浴びて、暖かく感じた。

(3) 逃げないで、現実をしっかりと見つめる。

(4) 勉強するときはテレビは消すと決めよう。

発展問題

① 次の文章中から動詞を八つ見つけ、——線を引きなさい。また、それぞれ終止形を書きなさい。

「努力すれば何でもできる。」兄はいつもこう言って私を励ましてくれた。すぐにあきらめてしまう私は、兄の言葉に何度も勇気づけられた。

② 次の——線部の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 吹く風アに秋の訪れイが感じられる。

(2) 「早く来い。」と、父エが言った。

(3) もっと勉強すれば、成績は上がるカ。

(4) 朝ごはんを食キべないで学校クに来た。

ア () 活用 () 形 () イ ()

ウ () 活用 () 形 () エ ()

オ () 活用 () 形 () カ ()

キ () 活用 () 形 () ク ()

活用 () 形 ()

活用 () 形 ()

活用 () 形 ()

活用 () 形 ()



動詞の活用形と活用の種類 練習問題

二 形容詞・形容動詞

(一) 形容詞・形容動詞の活用

形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているので、区別はほとんどありませんが、活用のしかたに違いがあるので、独立した品詞として考えます。

1 形容詞

- ・海はともも広がつた。 暗い夜道を歩く。 (状態)
- ・彼は優しい。 砂糖で甘く煮る。 (性質)

例文の「広かつ」「暗い」「優しい」「甘く」が形容詞です。

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、それだけで述語や修飾語になります。

① 形容詞の活用

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
	主な 続き方 語幹	—う	—た —ない —なる —ございます	—	—とき —ので	—ば	—
明るい	明る	かる	う く かつ	い	い	けれ	○

※形容詞の活用の種類……一種類だけで、命令形はありません。

② 形容詞の音便

- ・今年の夏は暑うございます。(暑く↓暑う)
 - ・この料理は、おいしゅうございます。(おいしく↓おいしゅう)
- 「暑う」のように、形容詞の連用形に「ございます・ぞんじます」が続くとき、**連用形語尾の「く」が「う」に変わる**ことがあります。これを**ウ音便**といいます。「おいしゅう」のように、語幹が変化することもあります。

学習を確かめよう

① 次のア～ケの単語の中から形容詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|-------|
| ア | おいしく | イ | 細かい | ウ | おかしな |
| エ | 小さな | オ | 争い | カ | ほしい |
| キ | よい | ク | 細かな | ケ | あたたかい |

② 次の——線部の形容詞の活用形を答えなさい。

- (1) 自分は新しい可能性を見つけたい。(形)
- (2) 君がいなくなると、さぞ寂しかろう。(形)
- (3) 忘れ物に気づいたときにはもう遅かつた。(形)
- (4) 試合に負けて悔しければ、より練習に励まう。(形)
- (5) 君の言葉は何よりも頼もしい。(形)

③ 次の文章中から、形容詞を五つ見つけて——線を引きなさい。

中学校の部活動を振り返ったとき、つらかった思い出、楽しかった思い出が入り混じってよみがえってくる。
頑張っても結果が出ない。悔しい思いも多クしたが、最終的には、美しい経験として私の心に生き続けるだろう。

① 次の文から、名詞を選んで——線を引きなさい。また□の中からあてはまるものを選んで、それぞれの記号を——線の右に書きなさい。

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| A | 普通名詞 | B | 代名詞 | C | 固有名詞 |
| D | 数詞 | E | 形式名詞 | | |

- (1) 雪が解け、ようやく北海道にも春がやってきた。
- (2) ダニエルが言ったとおりでした。
- (3) 新しい卵を十箱、岡崎のスーパーマーケットに届けた。
- (4) どこへ行ったって、地平線など見ることはできない。
- (5) それは彼女のおばあさんから聞いた話です。
- (6) この本は、だれのですか。

② 次の各組の文で、——線部の語の品詞名を書きなさい。

- | | | | |
|-----|---|-----------------------------|-----|
| (1) | ア | 彼の家には小さな庭がある。 | () |
| | イ | 彼の家には小さい庭がある。 | () |
| (2) | ア | ある朝、珍しい色の花が咲いた。 | () |
| | イ | 机の上には一枚の葉書が置いてある。 | () |
| (3) | ア | この品物はさる高貴なお方にさしあげる
献上品だ。 | () |
| | イ | 私は「去る者は追わず」と思っている。 | () |
| (4) | ア | あの、今何時かわかりますか。 | () |
| | イ | あの場面はもう一度見てみたい。 | () |
- ③ 次の()にあてはまる接続詞をあとの□から選び、記号で答えなさい。
- | | |
|-----|------------------------|
| (1) | 東京に行った。()、横浜にも行った。 |
| (2) | 雨が降ってきた。()、大会は続けられた。 |
| (3) | 涼しくなったね。()、今日は何の用ですか。 |
| (4) | 剣道を続けるか。()、野球をやるか。 |

- | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|------|
| ア | だから | イ | しかし | ウ | また |
| エ | それとも | オ | つまり | カ | ところで |

4 次の文章中から形容詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) 私は中学生のころ、南極の写真を見て、大きくなったら南極の自然を研究したいと思った。しかし、当時の日本はまだ貧しく、海外調査に出かけるなど夢のまた夢の話だった。

(2) 怖かったね。補助輪がないから不安定だし、坂道はきつい。

(3) 彼のおじさんは、先日、湖に近い大きな森に入り、太い杉の木を切りました。

(3)	(2)	(1)
形	形	形
形	形	形

5 次の各組の——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の証言にはおかしな点がいくつかある。()
 イ 彼の証言にはおかしい点がいくつかある。()

(2) ア あの海は、昔とても美しかった。()
 イ あの海は、昔とてもきれいだった。()

6 次の文から形容動詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) ロマンチックな映画だったが、ストーリーは複雑だった。

(2) 朝からさわやかなあいさつをして、元気に登校しましょう。

(3) 彼らが真剣ならば、予選通過は簡単だろう。

(3)	(2)	(1)
形	形	形
形	形	形

7 次の各組の文で、——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。()
 イ 彼の表情が徐々に柔らかになってきた。()

(2) ア 彼にとって大切な仕事である。()
 イ 彼にとって大きな仕事である。()

(3) ア 電車は静かに駅を出たあとだった。()
 イ 電車は静かに駅を出たあとだった。()

IV 付属語

一 付属語の種類

(一) 助動詞

- 例 私は詩を書く。
 (1) 私は詩を書かない。
 (2) 私は詩を書きます。
 (3) 私は詩を書きたい。
 (4) 私は詩を書いた。

「ない」を加えて意味を否定する。
 「ます」を加えて丁寧な表現にする。
 「たい」を加えて希望を表す。
 「た」を加えて過去のことを表す。

例のように、「ない」「ます」「たい」「た」などの単語を付け加えることによって、「書く」にいろいろな意味を添えることができます。これらの単語を助動詞といいます。

助動詞とは

・付属語で、活用があります。
 ・用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりします。

- (1) 彼も本を読みたかろう。(未然形)
 (2) 彼は本を読みたかった。(連用形)
 (3) 私は本を読みたくなる。(連用形)
 (4) 私は本を読みたい。(終止形)
 (5) これは私の読みたい本だ。(連体形)
 (6) 本が読みたければ図書館へ行け。(仮定形)



このように、「たい」という助動詞は、形容詞とよく似た活用をします。
 ほかに動詞や形容動詞に似た活用をしたり、独自の活用をしたりする助動詞があります。

学習のねらい

◇ 助動詞・助詞はどのように分類され、それぞれどのような働きをするのか理解する。

学習を確かめよう

① 次の動詞を例にならってひらがなで空らん に書きなさい。

例	読む	せる・させる	れる・られる	う・よう
(1)	行く	よませる	よまれる	よもう
(2)	着る			
(3)	食べる			
(4)	する			
(5)	来る			

② 次の文の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 私の家のねこが、急に姿を消した。
 (2) 父は、急用ができて東京に出かけるらしい。
 (3) 日本には、外国からの輸入品がたくさんあります。
 (4) 母は、絶対に飛行機に乗らないと言っているそうだ。

① れる・られる 受け身、可能、尊敬、自発の助動詞

- ・友達に慕われる。
- ・友達から教えられる。
- ・すぐに覚えられる。
- ・先生が本を読まれる。
- ・おじさんが来られる。
- ・故郷が思い出される。
- ・父のことが案じられる。

受け身 (〜に〜される) の意味を表す)

可能 (〜することが出来る) の意味を表す)

尊敬 (〜なさる) という、他を敬う意味を表す)

自発 (「自然に〜する」の意味を表す)



最近増えている話し方に、「すぐに覚えれるよ。」「君にも見れるよ。」があります。これらをいわゆる「ら抜き言葉」といいます。本来は「覚えられる」「見られる」です。五段活用とサ行変格活用は「れる」「その他の活用は「られる」が続きます。

② せる・させる 使役(人に命じてさせる意味)の助動詞

- ・本を読ませる。
- ・もう少し詳しく調べさせる。
- ・明日は彼女にも来させよう。

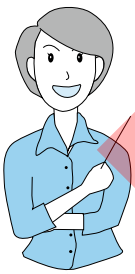
学習を確かめよう

① 次の——線部の「れる」「られる」は、A 受け身 B 可能 C 尊敬 D 自発のどれにあたるか、記号で答えなさい。

- (1) 一時間ぐらいでふもとまで下りられる。()
- (2) 写真を見ると母のことが案じられる。()
- (3) ぼんやりしていて、人に追い越される。()
- (4) おじさまはときどき目をつぶって考えられる。()
- (5) 先生から頼りになるとほめられた。()
- (6) 夏にいつも思い出されるのは、あの山の風景だ。()
- (7) 友に支えられて、ここまでやってきた。()

② 次の——線部を、助動詞を使って使役の意味になるように書き直しなさい。

- (1) すぐにやめるように指示をした。()
- (2) これを見るとよい。()
- (3) 三時に来ればまに合う。()
- (4) 熱があるので薬を飲む。()
- (5) 今から勉強します。()



「れる」「られる」と同じように、五段活用とサ行変格活用は「せる」「させる」、その他の活用の種類には「させる」が続きます。「見せる」「着せる」などはそれだけで一つの動詞です。

③ たい・たがる 希望の助動詞

- ・私はカレーライスが食べたい。(自分が希望する意味を表す)
- ・弟はしきりに帰りたい。(第三者が希望する意味を表す)

④ ない・ぬ(ん) 否定(打ち消し)の助動詞

- ・もう一か月も雨が降らない。
- ・雨の降らぬ月はない。



否定の助動詞「ない」は、「ぬ」に置き換えられます。
形容詞の「ない」と区別しましょう。

「ない」の識別

- ① 今日は宿題がない。(形容詞)
- ② 今日は宿題が多く(は)ない。(補助形容詞)
- ③ 今日の宿題はわからない。(助動詞)

⑤ う・よう 推量、意志、勧誘の助動詞

- ・彼も行きたいだろう。(推量の意味を表す)
- ・早く起きようと思う。(意志の意味を表す)
- ・さあ、外に出かけよう。(勧誘……誘いかける意味を表す)

③ 次の文の()に希望の助動詞を入れ、文を完成させなさい。

- (1) こんなに走り続けたら、水が飲み()なる。
- (2) テレビゲームで遊び()が、勉強しよう。
- (3) 外国人が写真を撮り()ている。
- (4) うちのポチがごはんを食べ()ないの。

④ 否定の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 大切なことは言わなければわからない。
- (2) 練習せずに勝てるわけがない。
- (3) 約束は守らねばならない。
- (4) 知らぬが仏とはよく言ったものだ。
- (5) 中学生になると外で遊ばなくなる。
- (6) 山頂の宿で流れ星を見なかったことはない。



⑤ 次の——線部の助動詞の意味を書きなさい。

- (1) 君もいっしょに遊ぼう。()
- (2) 宿題を終わらせてからテレビを見ようと思う。()
- (3) 練習もこれからますます厳しくなるだろう。()

⑥ た(だ)

過去、完了、存続、想起の助動詞

- ・昨日まで元気だったのに。(過去 過ぎ去った動作や現象を表す)
- ・いま、着いたばかりである。(完了 たった今動作が完了したことを表す)

・こわれた筆箱がある。

(存続 「〜ている」「〜である」、その

状態が今も続いているという意味を表す)

(想起 過去にあったことを思い起こすという意味を表す)

・これは君のだったね。

⑦ ます

丁寧の助動詞

・必ずお知らせします。

「ます」の命令形「ませ」

「ませ」は、「いらっしゃる・おっしゃる・くださる・なさる」など、敬意を表す語に付きます。

例 いらっしゃいませ。

⑧ らしい

推定の助動詞

・明日はどうかやら雨らしい。

「あの子の行動はいかにも子どもらしい」の「らしい」は形容詞「子どもらしい」の語尾です。



⑥ 次の例文の——線部「た」と同じ意味のものをあとのア〜エから選び、記号で答えなさい。

例 窓辺に置かれた花が美しい。

ア 昨夜はとても暑かった。

イ あなたは、鈴木さんでしたね。

ウ 壁にかけられた絵を鑑賞する。

エ ちょうど今、作品ができたところです。

⑦ 次の——線部で、推定の助動詞でないものをつ選び、記号で答えなさい。

ア

だれも原因を知らないらしい。

イ 彼女が、どうやらリーダーらしい。

ウ 彼の研究への姿勢はとても学者らしい。

⑧ 次の例文の——線部を、助動詞を使って次の(1)〜(5)の意味に書き直しなさい。

例

彼は、プールに入る。

(1) 丁寧の意味を表すように。

(2) 希望の意味を表すように。

(3) 過去の意味を表すように。

(4) 否定の意味を表すように。

(5) 推定の意味を表すように。

⑨ ようだ
ようです
推定、**比喩**の助動詞

- ・どうやら性格はまじめな**ようだ**。(推定の意味を表す)
- ・まるで花が咲いた**ようだ**。(比喩の意味を表す)

⑩ そうだ
そうです
推定・**様態**(物事の様子や状態から推し量る)の助動詞
伝聞(他の人から聞いたこと)の助動詞

- ・明日は雨が降り**そう**だ。(推定・様態の意味を表す)
- ・明日は雨が降り**そう**だ。(伝聞の意味を表す)

⑪ まい
否定(打ち消し)の意志、**否定の推量**の助動詞

- ・もう決して泣く**まい**。(否定の意志「くならないようにしよう」の意味を表す)
- ・明日は雨は降る**まい**。(否定の推量「くまないだろう」の意味を表す)

⑫ だ・です
断定(物事を確かなこととして言い切る意味)の助動詞

- ・これは**教科書**で、あれが**ノート**だ。
- ・おじさんは**狩り**の名人**です**。



「だ」を「な」に置き換えられるのが形容動詞です。
・昨日、公園で遊**んだ**。(過去の助動詞「た」)
・今夜はとて**も静**か**だ**。(形容動詞の語尾)

⑨ 次の——線部の助動詞を、A推定の助動詞とB比喩の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 彼女の**よう**ない人は**い**ない。()
- (2) 事件のことをみんな知**つ**ている**よう**だ。()
- (3) この寒さは冷蔵庫の中**に**いる**よう**だ。()

⑩ 次の——線部の助動詞を、A推定・様態の助動詞とB伝聞の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 来月**く**らいから寒**く**なり**そう**だ。()
- (2) **もう**すぐ彼も来**る****そう**だ。()
- (3) 彼女**なら**でき**そう**なので、任**せ**ることに**し**た。()

⑪ 次の——線部の助動詞の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 彼は**少**しも笑**わ**ない。()
- (2) ジェットコースター**ほ**ど怖**く**あり**ま**せん。()
- (3) そんなことは**あ**る**ま**い。()
- (4) 仕事を**せ**ねば、生活が**成**り立**た**ぬ。()
- (5) **もう**あの本は**読**む**ま**い。()
- (6) さ**よ**なら**も**言**わ**ず**に**彼は去**つ**て**い**った。()

ア 否定(打ち消し) イ 否定の意志 ウ 否定の推量

⑫ 次の——線部で断定の助動詞を三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼は**僕**の親友**だ**。 イ 彼女は**と**ても親切**だ**。
ウ **こ**こは居間**で**、向**こ**うが台所**だ**。 エ 湖は**静**か**だ**つた。
オ 彼女は**以**前、医者**だ**つた。 カ **昨**日、庭**で**転**ん**だ。()

勧誘 意志 推量		否定 (打ち消し)		希望		使役		自発 尊敬 可能 受け身		意味	助動詞活用表
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる	基本形	
投げよう	行こう	知らぬ	知らない	見たがる	覚えたい	やめさせる	働かせる	投げられる	聞かれる	用例	
○	○	○	なかる	たがら たがる	たかろ	させ	せ	られ	れ	未然形	
○	○	ず	なかつ なく	たがり たがっ	たかつ	させ	せ	られ	れ	連用形	
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる	終止形	
(よう)	(う)	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる	連体形	
○	○	ね	なけれ	たがれ	たけれ	させれ	せれ	られれ	れれ	假定形	
○	○	○	○	○	○	させよ させろ	せよ せろ	られよ られろ	れよ れろ	命令形	



助動詞は、それぞれこの活用表のように活用します。参考にしましょう。

断定		否定の意志 否定の推量		伝聞		推定 様態		推定 比喩		推定	丁寧	想起 存続 完了 過去	意味
です	だ	まい	そうです	そうだ	そうです	そうだ	ようです	ようだ	らしい	ます	た(だ)	基本形	
学校です	学校だ	行くまい	降るそうです	降るそうだ	降りそうです	降りそうだ	降るようです	降るようだ	雨らしい	始まります	書いた	用例	
でしょ	だろ	○	○	○	そうでしょ	そうだろ	ようでしょ	ようだろ	○	ませ ましょ	たろ (だろ)	未然形	
でし	だっ	○	そうでし	そうで	そうでし	そうだっ そうに	ようでし	ようだっ ように	らしかつ らしく	まし	○	連用形	
です	だ	まい	そうです	そうだ	そうです	そうだ	ようです	ようだ	らしい	ます	た(だ)	終止形	
(です)	(な)	(まい)	(そうです)	○	(そうです)	そうな	(ようです)	ような	らしい	ます	た(だ)	連体形	
○	なら	○	○	○	○	そうなら	○	ようなら	○	ますれ	たら (だら)	假定形	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ませ) (まし)	○	命令形	

(二) 助詞

学習を確かめよう 

・犬（ ） 猫（ ） 追いかけた。
 右の（ ）の中にはどんな言葉が入るのでしょう。
 (1) 犬(が) 猫(を) 追いかけた。
 (2) 犬(を) 猫(が) 追いかけた。
 このように、（ ）に入れる言葉によって、追いかける側と追いかける側が逆転してしまいます。「が」や「を」は、語句と語句がどのような関係にあるのかを示しているのです。
 この「が」「を」のような言葉を助詞といいます。

助詞とは

・付属語で、活用がありません。
 ・語句と語句の関係を示したり、いろいろな意味を付け加えたりします。

種類

- ① 格助詞……主として体言に付く。
 (例) の、が、を、に、へ、と、から、より、で、や
- ② 副助詞……いろいろな語句に付く。
 (例) は、も、こそ、さえ、でも、だって、まで、しか、だけ
- ③ 接続助詞……主として用言や助動詞に付く。
 (例) ば、と、ので、から、が、けれど、のに、ても、て、ながら
- ④ 終助詞……文や文節の終わりに付く。
 (例) か、の、かしら、な、ね、さ、よ、や、ぞ、わ

① 次の文の助詞に——線を引きなさい。

彼は胸のポケットから、古い大きな万年筆と小さな紙切れを取り出して、メモをしながら私の話を聞いていたよ。

② 次の——線部の助詞の種類をあとのもう一つから選び、記号で答えなさい。

- (1) 今度こそ勝ちたい。() ()
- (2) こんなやり方でいいのか。() ()
- (3) 私もそう思います。() ()
- (4) この手紙を持っていく。() ()
- (5) 辛いけれど、完食した。() ()
- (6) 先生が姉と話をする。() ()
- (7) 私は大声で叫びたい。() ()
- (8) 話せばわかつてもらえるよ。() ()
- (9) 六時までに起きる。() ()
- (10) どんなに寒かろうと、上着は着ない。() ()
- (11) 駅から十分のところにある。() ()
- (12) こんなことはやりたくないや。() ()

ア 格助詞 イ 副助詞 ウ 接続助詞 エ 終助詞

① 格助詞 文節と文節の関係を示します。主として体言に付きます。

- の
- ・私が出した手紙。
 - ・遠くの山を眺める。
 - ・私は泳ぐのが好きだ。
 - ・よい悪いのと文句を言う。
 - ・人が歩いてる。
 - ・食べものがほしい。
 - ・本を読む。
 - ・家を出発する。
 - ・船で川を渡る。
 - ・学校に行く。
 - ・十一時に寝る。
 - ・雪がとけて水になる。
 - ・講演を聞きに行く。
 - ・車にぶつけられる。
 - ・北へ南へ走りまわる。
 - ・駅へ行く。
 - ・兄と買物に行く。
 - ・トラとライオンと象がいる。
 - ・四月から高校生となる。
 - ・天才とたたえられた。
 - ・友達と話す。
 - ・九時から会議が始まる。
 - ・車から顔を出す。
 - ・原油からガソリンを作る。
 - ・事故は信号無視から起こった。
 - ・太郎は次郎より大きい。
 - ・ここより先は進めません。
 - ・五時ですべては終了する。
 - ・木でおもちやを作る。
 - ・筆で字を書く。
 - ・かぜで学校を休む。
 - ・辞書や参考書で調べる。
- へ
- ・主語を示す
 - ・連体修飾語を作る
 - ・体言の代用||こと
 - ・並立
 - ・主語を示す
 - ・目的、対象
 - ・起点(場所)
 - ・移動する場所
 - ・場所
 - ・時間
 - ・作用の結果
 - ・動作の目的
 - ・相手
 - ・方向
 - ・場所
 - ・共同の相手(〜と共に)
 - ・並立
 - ・成り行きや結果
 - ・引用
 - ・相手
 - ・起点(時間)
 - ・起点(場所)
 - ・原料、材料
 - ・原因
 - ・比較の基準
 - ・限界
 - ・場所、時
 - ・材料
 - ・手段、方法
 - ・原因、理由
 - ・並立



(鬼) (戸) (出) (空) (部屋)
「をにがとよりで、からのへや」と言うと覚えやすいよ。

③ 次の例文の「の」と同じ働きをするものをア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 父の作った料理は、思ったよりもおいしい。
- ア 雨が降るのを眺める。
- イ 大切なのは、親友をみつけることだ。
- ウ 花の咲く季節が近づく。
- エ 林に風の音が響く。
- () () () ()

④ 次の例文の「に」と同じ働きをするものをア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 ごみが目に入って痛い。
- ア 太陽は静かに沈んでいく。
- ウ 朝六時に起きる。
- イ 毎年ふるさとに帰るはずだ。
- エ 水が凍って氷になる。
- () () () ()

⑤ 次の例文の「から」と同じ働きをするものをア〜ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 いたずら心から、彼はそこに隠れて私を驚かすつもりでいた。
- ア この事件があつてから、彼は小鳥のわなを作ることをやめた。
- イ 五匹の猫がいっぺんに、塀からどつと落ちてきた。
- ウ 事件は父の持ち帰った小さな折り詰めから、始まった。
- () () () ()

⑥ 次の例文の「で」と同じ働きをするものをア〜ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。
- ア 港は波も穏やかで、船出には絶好の日和だ。
- イ 家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。
- ウ 久しぶりの雨で、庭の草木も生氣を取り戻した。
- () () () ()

③ 接続助詞

上の部分と下の部分をつなぎ、その関係を示します。主として用言や助動詞（活用する単語）に付きます。

し	・ 頭もいいし、性格もいい。	・ 並立
たり(だり)	・ 見たり食べたり遊んだり。	・ 並立
から	・ 体調が悪いから休む。	・ 理由
ので	・ うるさいので出窓をしめる。	・ 理由
て(で)	・ 道が悪くて歩けない。	・ 原因、理由
	・ 頭もよくて、性格もいい。	・ 並立
	・ 歩いて学校へ行く。	・ 手段、方法
	・ 外で遊んでいる。	・ 補助の関係を作る
ば	・ 本も読めば、字も書く。	・ 並立
	・ 雨が降れば、かさがいる。	・ 条件
と	・ 暖かくなると花が咲く。	・ 順接
	・ 雨が降ろうと、僕は行く。	・ 逆接
が	・ 量も多いが、味もいい。	・ 並立
	・ 昼間は暑い、夜は寒い。	・ 逆接
ながら	・ 話しながら歩く。	・ 同時
	・ 知っているながら教えない。	・ 同時
つつ	・ 痛い足をかばいつつ歩く。	・ 同時
なり	・ ひと目見るなり病気がわかった。	・ 同時
けれど	・ 質もいいけれど、値も高い。	・ 並立
	・ 秋になったけれど、暑い。	・ 逆接
のに	・ 春なのに、雪が降る。	・ 逆接
ても	・ 冬になっても、暖かい。	・ 逆接

- ⑨ 次の文の接続助詞に、() 内の数だけ——線を引きなさい。
- 自分を成長させてくれる助けはいろいろあるが、本はその大きなきっかけのひとつである。 (2)
 - 自分の考えがはっきりしないときは、文章に書いてみるとはっきりするものです。 (2)
 - 太陽がとても強く照りつけるので、木陰に入って絵を描いたり本を読んだりしていた。 (5)

⑩ 次の——線部の接続助詞と同じ働きをするものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- 国語もできれば、数学もできる。 ()
ア 春になれば、桜の花が咲く。
イ 文もうまければ、絵もうまい。
ウ 行きたくなければ、行かなくてもよい。
エ ちりも積もれば、山となる。
- 足が痛くて走れない。 ()
ア 通路が狭くて通れない。
イ 電車に乗って、高校へ通う。
ウ 彼女は背が高く、姿勢がいい。
エ 公園で遊んでいる。
- このボールは小さいが重い。 ()
ア この服は形もいいが、色合いもいい。
イ 小鳥が鳴いている。
ウ 彼は体は大きい弱い。
エ 父の帰るのが遅い。

④ 終助詞

話し手や書き手の気持ちや態度を表します。
文や文節の終わりに付きます。

か	あの人ほだれですか。 君はこれでいいのか。 君もいつしよに行かないか。 とうとう優勝したのか。 杉浦さんなら、さつき帰ったよ。 もう起きる時間ですよ。 みんな、がんばろうよ。 彼はきつと来るさ。 まあ、それでもいいさ。 これは変な話だぞ。 もちろん、行くとも。 この映画はよかったなあ。 夕焼けがきれいだな。 やっぱりよかつたんだな。 遅いから早く寝な。 廊下を走るな。 君は、それでいいのだね。 あなたはもう終わったの。 彼はきつと来ると思うの。 海の水がとてもきれいだわ。 これで終わりましたわ。 この服似合うかしら。 こんな遊びつまらないや。	疑問 反語 勧誘 感動 告知 強調 勧誘 断定 軽く言い放つことを表す 強調 強い言い切り 感動 感動 軽い断定 軽い命令 禁止 念押し 疑問 断定 感動 やわらかい断定 疑問 軽く言い放つことを表す
よ		
さ		
ぞ		
とも		
なあ		
な		
ね		
の		
わ		
かしら		
や		

⑪ 次の文の終助詞に、全て——線を引きなさい。

- (1) みんなが元気だと幸せだな。本当にうれしくなるよ。
- (2) これは、あなたのペンですか。
- (3) 君もいつしよにやらないか。きつと、楽しいぞ。

⑫ 次の——線部の終助詞はどのような働きをしているか、あとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 出発まであと五分しかないから急ぎな。
- (2) 図書館では話をするな。
- (3) 外もだいぶ暗くなってきたから、そろそろ帰ろうか。
- (4) あなたは今度の休みに何をしますか。
- (5) いよいよ明日は本番だぞ。

ア 禁止 イ 勧誘 ウ 軽い命令
エ 強調 オ 疑問

⑬ 次の例文の——線部の助詞と同じ働きをするものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- 例 君にこの問題が解けるといふのか。 ()
- ア あなたはどこの学校の生徒ですか。 ()
- イ 僕たちといっしよに野球をしないか。 ()
- ウ 時間がないのに、こんなにのんびりしていいのか。 ()
- エ 次の日曜日に、みんなで公園の掃除をしませんか。 ()

VI 敬語

一 敬語

私たちが話をするときや文章を書くとき、聞き手や読み手などに対して敬う気持ちを表す言葉を敬語といいます。敬語は、相手への心遣いを表す言葉です。敬語を使うことは、堅苦しいことではなく、人と人との間をスムーズに結ぶための大切な心構えです。

(一) 丁寧語

丁寧語……話し手（書き手）が聞き手（読み手）に対して丁寧さを表す敬語。

例 ・僕は中学生だ。 ↓ 僕は中学生です。

・今から彼女が歌う。 ↓ 今から彼女が歌います。

・まだ時間がある。 ↓ まだ時間がございます。

① 助動詞（断定）「だ」を「です」に言い換える。

給食だ。 ↓ 給食です。

② 助動詞（丁寧）「ます」を付ける。

六時に起きる。 ↓ 六時に起きます。

③ 特別に丁寧な言い方「で」「ございます」を用いる。

これが注文の品よ。 ↓ これが注文の品でございます。

美化語

誰に対する敬意でもなく、話し手（書き手）が、自分自身の言葉を美しく表現するものを「美化語」という。

例 お風呂 お箸 お菓子 ご飯 ごちそう

学習のねらい

◇ 敬語の働きや種類を知り、敬語を自分のものにしてよう。

学習を確かめよう

① 線部の言葉を言い換えて、丁寧語を使った表現にしなさい。

(1) それは、私の思い出の写真だ。

(2) 吾輩は猫である。

② 次の文を丁寧語を使った表現に直しなさい。

(1) 昨日、水族館に行った。

(2) 彼はそこであの人と出会ったのだろう。

(3) 今日のカレーは、激辛だった。

(4) 今、北海道に住んでいる。

(5) みんなで一緒に歌おう。

(6) ある日、吹雪で外出できなかった。



敬語 詳しい説明(動画)

(二) 尊敬語

尊敬語……話題の中の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語。

例 ・あの人は、二時に来る。↓ の方は、二時にいらっしゃる。

・先生が本を読む。↓ 先生が本をお読みになる。

・君は、そう思うのだね。↓ あなたは、そう思われるのですね。

・客から届いた手紙がある。↓ お客様から届いたお手紙がございます。

敬意を表す人やその人の動作・様子・所有物などを直接高めめます。

① 動詞(敬語動詞)に置き換える。

行く・来る ↓ いらっしゃる・おいでになる

いる ↓ いらっしゃる・おいでになる

言う・話す ↓ おっしゃる

見る ↓ ご覧になる

食べる ↓ 召し上がる

する ↓ なさる ※到着する↓到着なさる

くれる ↓ くださる ※呼んでくれる↓呼んでくださる

② 「お(ご)・御(ご)になる」を付け加える。

聞く ↓ お聞きになる 疲れる ↓ お疲れになる

思う ↓ お思いになる 利用する ↓ ご利用になる

③ 助動詞(尊敬)「れる・られる」を付ける。

思う ↓ 思われる 上達する ↓ 上達される

起きる ↓ 起きられる 受ける ↓ 受けられる

来る ↓ 来られる

④ 敬意を表す接頭語・接尾語を付ける。

お宅 御社 御案内 貴校 尊父 (○○からの)お手紙・ご意見

鈴木様 姉さん 田中君 (※宛名↓)会社 御中

⑤ 名詞

方(かた) あなた どなた

動詞全般に使える形

学習を確かめよう

① 線部の言葉を言い換えて、尊敬語を使った表現に直しなさい。

(1) 先生の言うとおりで。

(2) 今日、家にいますか。

(3) 校長先生は、もう帰りました。

(1) 社長が来る。

(2) 何を食べますか。

(3) 八木先生が、分かりやすく説明した。

② 次の文を尊敬語を使った表現に直しなさい。

(1) 習字の先生が、私の作品を拝見する。

(2) 客がダイナーをお召し上がりになられる。

(3) 加藤は、家族様とゴルフをしますか。

③ 次の文を正しい敬語を用いた表現に直しなさい。

練習問題に取り組もう

(三) 謙譲語

謙譲語……話し手（書き手）自身がへりくだることによって、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語。

例
・夕食を食べる。↓夕食をいただく。
・今すぐに行きます。↓今すぐに参ります。

・先生に学級日誌を渡す。↓先生に学級日誌をお渡しする。
・この本を借ります。↓この本をお借りします。

謙譲語は、自分の所有物や行動、身近なものに対して使われます。

① 動詞（敬語動詞）に置き換える。

行く・来る ↓ 伺う・参る

いる ↓ おる

言う・話す ↓ 申す・申し上げる

見る ↓ 拝見する

食べる ↓ いただく

もらう ↓ いただく

する ↓ いたす

聞く ↓ 伺う・承る

知る・思う ↓ 存じる

やる ↓ あげる・差し上げる

② 「お（ご）御（ぎょ）」を付け加える。

持つ ↓ お持ちする
届ける ↓ お届けする

説明する ↓ ご説明する

③ 謙譲の意を表す接頭語・接尾語を付ける。

粗品 拙宅 弊社 寸志 愚見

（〇〇様への）お手紙 〇〇意見

私ども 私め

× お父さんは家にいません。

○ 父は、家におりません。

謙譲語の中には、丁寧語の「ます」をつけて使われ、聞き手への敬意を表すものとして「丁寧語」とすることもある。
例
参ります おります
申します いたします
存じます

動詞全般に使える形

身内（自分の家族、同僚）のことを他の人に言う場合には、謙譲語を使います。

学習を確かめよう

① 線部の言葉を言い換えて、謙譲語を使った表現に直しなさい。

(1) 校長先生から、賞状をもらいました。

(2) もう少し詳しくお話を聞きたい。

(3) 早速、お宅へ行きます。

(4) バスの中で、先生に会いました。

② 次の文の——線部を、謙譲語を使った表現に直しなさい。

(1) 家臣が、お殿様に「おれは、ここに——。」と言った。

(2) ——説明したので、後日、連絡します。

練習問題に取り組もう

③ 次の文を正しい表現になるように直しなさい。

(1) 明日のパーティーでは、弊社のみなさんに、御社の社長の佐藤が、日頃の礼をおっしゃいます。

(2) おじいさんが、先生の話を聞きになりたいそうです。

(3) 花に水をあげる。

① 次の文章の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

この仮説を検証するために、私たちはクマゼミの卵がどれぐらいの低温に耐えられるかを実験してみた。その結果、なんと氷点下二十一度に一日置いても、大部分が生き延びることがわかった。

次に、長く続く寒さへの耐性を調べた。観測史上、大阪市の一か月の平均気温が零度を下回ったことはない。そこで、それより低い氷点下五度に三十日間置いてみたが、特に影響は見られなかった。

(沼田英治「クマゼミ増加の原因を探る」)

①	活用	②	活用	③	活用	④	活用
⑤	活用	⑥	活用	⑦	活用	⑧	活用
⑨	活用	⑩	活用				

② 次の文章の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

私は医者に、昔のように走ることはできないだろうと言われた。足の傷は治り、半年で固定も取れるが、腕はいつ治るかわからないと言われた。今でもつづいている腕が痛むときがある。

①	形	②	形	③	形	④	形	⑤	形
⑥	形	⑦	形	⑧	形	⑨	形	⑩	形

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

父は七十歳の夏になくなった。父の思い出として印象的なのは、小学校の夏休みに二人だけで行ったドライブである。お弁当と冷たい飲み物を持って、山道を車で上がっていく。そして、木陰にビニールシートを敷いて、私は読書し、父はのんびり食事を始める。お金をかけた旅行より、父の気まぐれで突然行ったこのドライブは、夏の光と同じように私の心に鮮明によみがえってくる。

父がいなくなった今、この思い出は私の宝物だ。

(編集委員による書き下ろし)

(1) ①～⑥の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

①	活用	②	活用
③	活用	④	活用
⑤	活用	⑥	活用

(2) ①～⑥の動詞の中で補助動詞(形式動詞)であるものを二つ見つけ、番号で答えなさい。

(3) ①～⑥の動詞の中で複合動詞であるものを一つ見つけ、番号で答えなさい。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 君たちはモアイを知っているだろうか。それは、人間の顔を彫った
 巨大な石像であり、^ア大きなものでは高さ二十メートル、重さ八十トン
 にも達する。モアイは、^イ南太平洋の絶海の孤島イースター島にある。
 イースター島は、日本の種子島たねがしまの半分にも満たない大きさの火山島だ。
 この小さな島で、これまでに千体近いモアイが発見されている。
 いったいこの膨大な数の巨像を誰が作り、あれほど大きな像をどう
 やって運んだのか。また、あるときを境として、この巨像モアイは突
 然作られなくなる。いったい何があったのか。モアイを作った文明は
 どうなってしまったのだろうか。実は、この絶海の孤島で起きた出来
 事は、私たちの住む地球の未来を^ウ考えるうえで、とても大きな問題を
 投げかけているのである。^エこれまでにわかってきたイースター島の歴
 史について述べながら、モアイの秘密に迫っていききたい。

(安田喜憲「モアイは語る——地球の未来」)

(1) 線①を文節に分け、その数を漢数字で書きなさい。()

(2) 線②を単語に分けるといくつになるか、漢数字で書きなさい。()

(3) 文章中に一つ形容詞があります。それを抜き出して書きなさい。

形容詞 ()

(4) 線ア、イ、ウの中から形容動詞を一つ選び、記号で答えなさい。()

(5) 線③～⑦動詞の活用の種類と活用形をそれぞれ書きなさい。

③	()	活用	()	形
④	()	活用	()	形
⑤	()	活用	()	形
⑥	()	活用	()	形
⑦	()	活用	()	形

⑤ 次の各組の——線部のうち、例文の助詞と同じ働きをするものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 例 昨日、試合を見に行_レった。

ア 明日は十時に寝よう。
ウ 祖父に会いに出かける。

イ 塩を溶かして食塩水にする。
エ 母に注意される。

(2) 例 僕の書いた作文が入選した。

ア 雨の降る日が多くなる。
ウ 階段の手すりにつかまる。

イ 部屋に風鈴の音が響く。
エ 仲良くするのはいいことだ。

(3) 例 声が大きくて耳が痛い。

ア 駅まで走っていく。
ウ この公園は広くて、静かだ。

イ 別の方法を試してみる。

エ 今日の夕食は多すぎて食べきれない。

(4) 例 みなさんもいっしょに参加しませんか。

ア 公園で弁当を食べようか。
ウ この方法でよいのだろうか。

イ これは正解ですか。
エ ついにここまで来たのか。

(5) 例 昔の友達に手紙を書いた。

ア 毎朝七時に家を出ます。
ウ 美しい星空を眺める。

イ 交差点を人が横切った。
エ 今、駅を出発した。

⑥ 次の例文の——線部の助動詞と同じ働きをするものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 例 私は失敗して友達からよく笑われる。

ア この単語はすぐに覚えられる。
イ あの海を見ると、故郷が思い出される。
ウ 今度の連休でおばさんが来られる。
エ 大切なことを友人から教えられる。

(2) 例 明日も早く起きようと思う。

ア きつと苦しかっただろうと思う。
イ がんばって練習しようと思った。
ウ みんなも歌ってみようと呼びかけた。
エ この会はきつと成功するだろう。

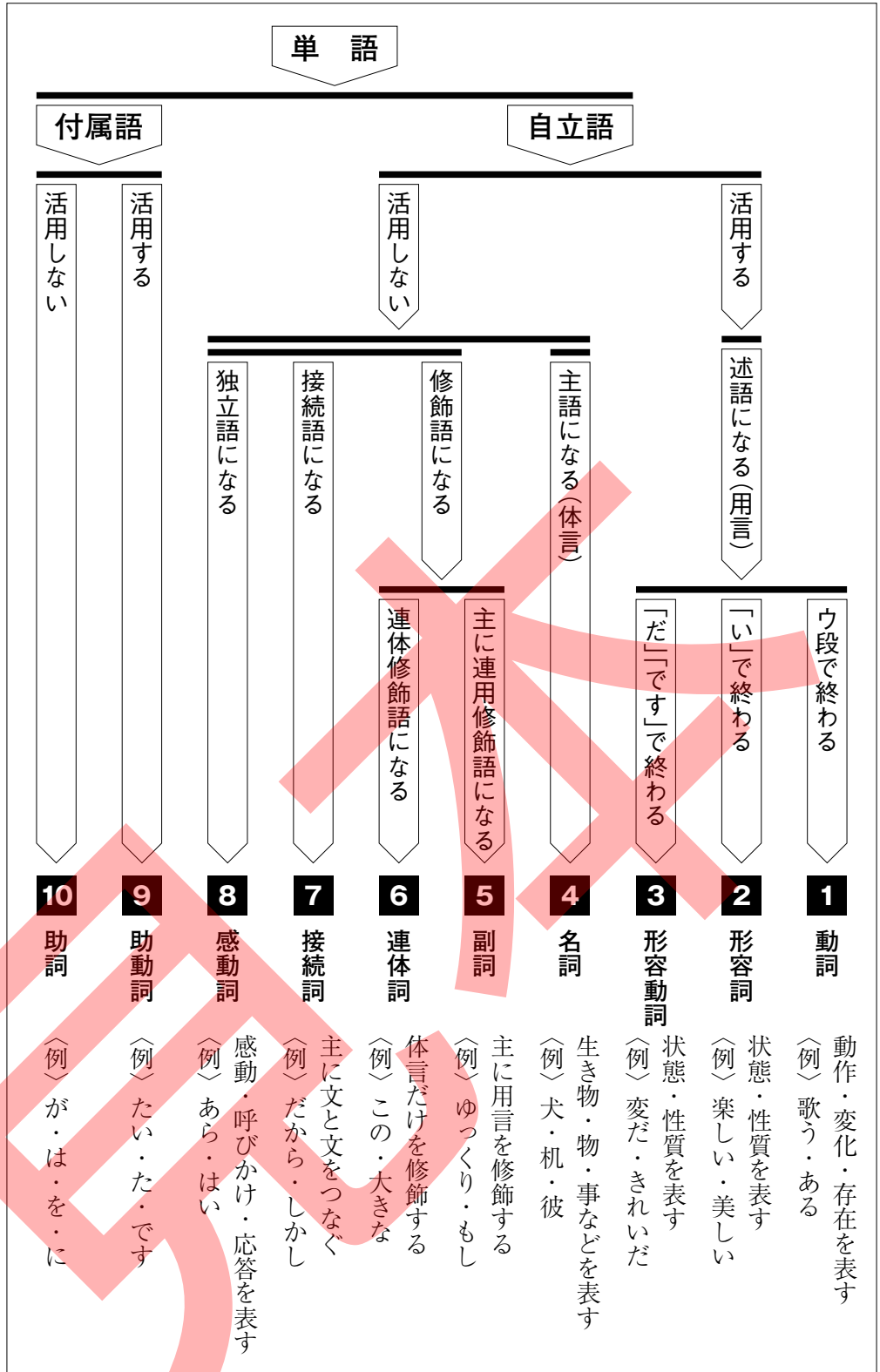
⑦ 次の——線部のうち、助動詞でないものを全て選び、記号で答えなさい。

い。

ア 僕の教科書です。
ウ この川はとてもきれいだ。
オ どうやら家に帰つたらしい。
キ 僕には自信がない。

イ ここが教室だ。
エ 彼はとても男らしい。
カ 間食は取らない。

◎品詞分類表（口語）：文法上の性質によって単語を分類した表



困ったときには、
この表を思い出し
ましょう。



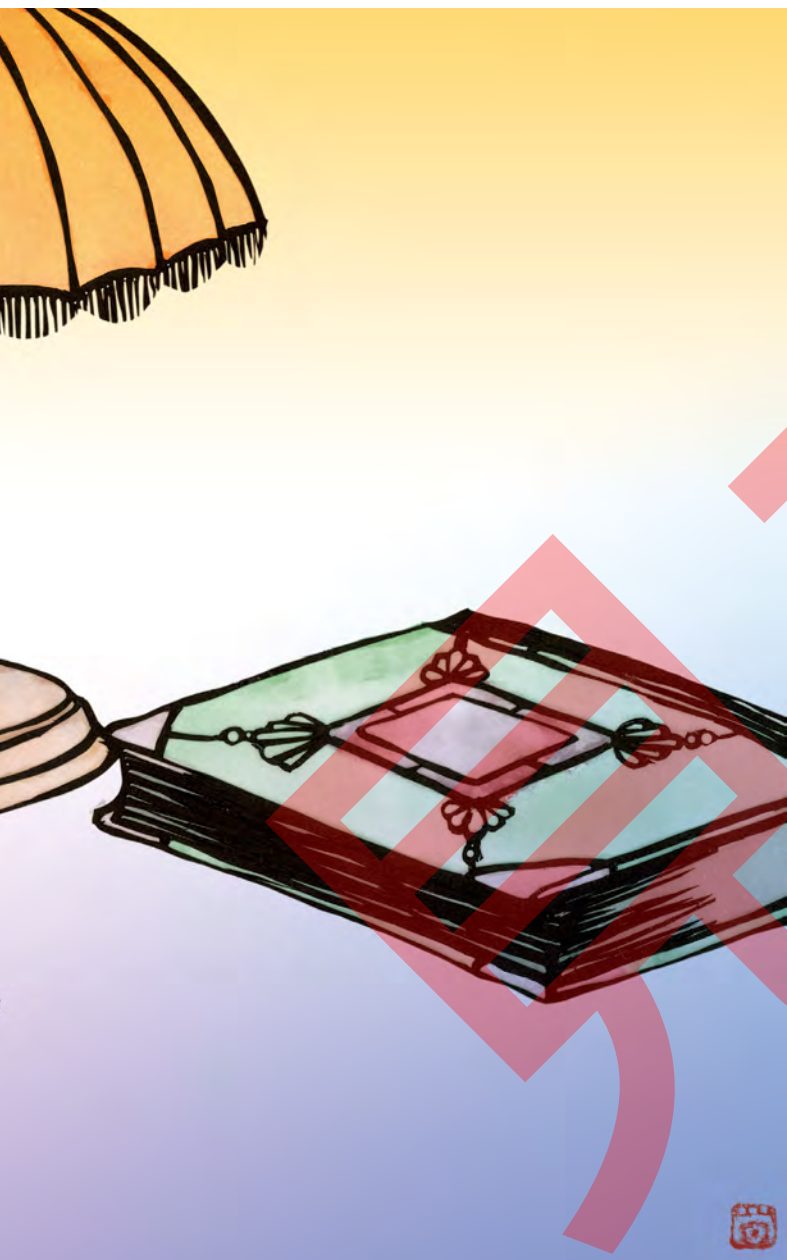
令和6年度版 ことばのきまり 中学2年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 (0564) 51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。



赤木

2年 組 番

氏名

令和

6

年度版

はとよしのまはる



2

教師用

愛知教育文化振興会
三河教育研究会

もくじ

I	一年生の復習	2
一	言葉の単位	2
二	品詞の分類	3
II	自立語	4
一	活用する自立語	4
一	動詞	4
二	形容詞	6
三	形容動詞	7
二	活用しない自立語	8
一	名詞	8
二	副詞	12
三	連体詞	14
四	接続詞	16
五	感動詞	17
III	用言の活用	18
一	動詞	18
一	動詞の活用	18
二	動詞の活用の種類	20
二	形容詞・形容動詞	23
一	形容詞・形容動詞の活用	23
IV	付属語	23
一	付属語の種類	27
一	助動詞	27
二	助詞	33
V	類義語・対義語・多義語	38
一	類義語	38
二	対義語	38
三	多義語	38
VI	敬語	39
一	敬語	39
一	丁寧語	39
二	尊敬語	40
三	謙讓語	41

「ことばのきまり」の特色と使い方

「ことばのきまり」は、授業や教科書に合わせて、自主的に学習を進めることができるように編集してあります。この本のしくみと使い方を説明しますので、よく読んで学習を進めていきましょう。

一 この本のしくみ

「ことばのきまり」は、およそ次のように構成されています。

(一) 例を示して説明するところ

・ 例文を示して説明します。

・ 必要に応じて、詳しく説明します。

(二) 学習を確かめよう

・ 解説を受けて、基本的な問題を解きます。

(三) 練習問題に取り組もう

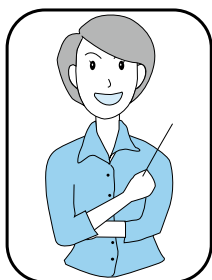
① 基本問題をさらに解き、学習の定着を図ります。

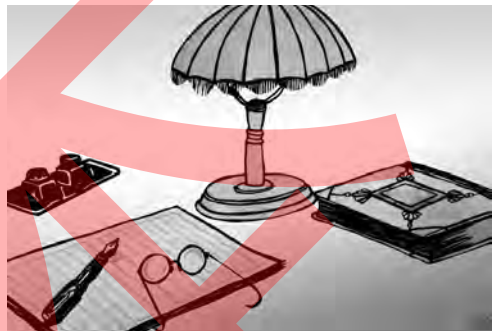
② 基本問題よりやや難しい発展問題を解きます。

※この構成は、学年や単元によって異なりますが、基本的な学習を終えて練習問題に進むことになっています。

二 登場人物のアドバイス

「ことばのきまり」には、次の二人の人物が登場します。それぞれのアドバイスをしながら、自主的に学習を進めましょう。





『ことばのきまり2』を学ぶにあたって

— 優れた言葉の使い手になろう —

コンビニエンスストアで支払いをするとき、「千円からお預かりします」と言われ、違和感を覚えるという話があります。言葉は、生きているものであり、時代や環境によって使い方が変わるものではありますが、耳障りに感じる人も多いのではないのでしょうか。だれにとっても心地よい、正しく美しい日本語の使い手となれるように文法を学んでいきましょう。

『ことばのきまり2』では、一年生の復習をIで行い、それを

もとに、VIまでの内容を学習します。

IIでは、三つの活用する自立語と五つの活用しない自立語について学習します。

言葉の意味からだけでなく、品詞としてのきまりを知ることにより正確に、感性鋭く、言葉を理解することができます。

例えば、動詞では、「自転車がこわれた。(自動詞)」は壊れた原因が自分にはないことが分かり、それに対して、「自転車をこわした。(他動詞)」では、作用の原因が作用側にあることを表現しています。自動詞か他動詞かを知ること、他の例でも、より的確に動詞を使うことができるようになるでしょう。

IIIでは、用言の活用について、IVでは、語句と語句の関係を示し、気持ちや判断を表す付属語について、Vでは、類義語・対義語・多義語について、VIでは、敬語についての学習を進めていきます。

類義語等の知識を深めることで、比較したり、複数の視点で考えたりしながら、実践的に使える言葉の幅が広がることでしよう。敬語は、相手への心遣いを表し、人と人との関係を結ぶ重要な言葉です。学習を通して、言葉を使う際の相手への意識も磨くことになるでしょう。

学習の見通しをもち、実感して分かるまで練習し、言葉の知識を整理して、みなさんが、優れた言葉の使い手になることを願っています。

I 一年生の復習

一言葉の単位

文とは

いろいろな出来事や事柄を、伝えたり、尋ねたり、行動を誘いかけたりする言葉のまとまりを、**文**といいます。
文の区切りは、文字で書く場合は「。(句点)」で示するのが普通です。話すときは、そこで息を切って、少し休むことで表します。

文節とは

発音や意味のうえで、不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりを**文節**といいます。
このように考えると、文は全て一つ以上の文節からできています。ですから、文節は文を組み立てる単位であるといえます。

次の二つの文を文節に区切ってみましょう。

- a 赤い花がきれいに咲く。 「赤い 花が きれいに 咲く。」
- b 大きな夕日がゆつくりと沈みます。「大きな 夕日が ゆつくりと 沈みます。」

意味もわかり、息の切り方も自然なひと区切りが文節です。文節に区切るときは、文中に「ね」「さ」などを入れて意味が通じるかどうかを考えて判断しましょう。

文節どうしの関係とは

- ① 「何が」―「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」の関係
↓主・述の関係
- ② ある文節が他の文節を詳しくしている関係
↓修飾・被修飾の関係
- ③ 接続語がつなぐ文と文との関係や、後に続く文節との関係
↓接続の関係
- ④ 独立語と、それ以外の文節との関係
↓独立の関係

単語とは

文節をさらに細かく分け、それ以上分けると言葉としての意味がなくなるか、言葉としての役割を果たさなくなるところまで区切った言葉の最小単位を、**単語**といいます。

冷たい 水が 谷を 流れた。

右の例文は、四つの文節からできています。これを、さらに細かく分けてみましょう。

冷たい 水 が 谷 を 流れ た。

となります。つまり、七つの単語に分かれます。

Ⅱ 自立語

一 活用する自立語

(一) 動詞

- ・手紙を書く。
朝早く起きる。
(動作)
- ・背が伸びる。
洗たく物が乾く。
(変化)
- ・猫がいる。
本がある。
(存在)

例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
- ・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

いろいろな動詞

① 自動詞

- ・人が集まる。
- ・気分が変わる。

例文の「集まる」「変わる」のように、それ自身の動作や変化を表し、

「(何が) どうなる」かを表す動詞を自動詞といいます。

② 他動詞

- ・人を集める。
- ・気分を変える。

例文の「集める」「変える」のように、他への動作や変化を表し、

「(何を) どうする」かを表す動詞を他動詞といいます。

学習のねらい

- ◇ 「自立語」にはどのような種類があるのかを知る。
- ◇ 「品詞」にはそれぞれどのような性質や働きがあるのかを理解し、それぞれの品詞を見分けられるようにする。

学習を確かめよう

① 次の単語の中から動詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|------|
| ア 探す | イ 静かだ | ウ 勉強する | エ そして | オ 笑う |
| カ 今日 | キ 泣く | ク 浮かぶ | ケ 美しい | コ する |
| サ 震える | シ 悪い | ス しばらく | セ 激しい | ソ いる |

② 次の動詞について、例にならって自動詞か他動詞かを区別し、自動詞ならそれに対する他動詞を、他動詞なら自動詞を書きなさい。

- | | | | | | | |
|-----|-----|-----|---|-----|---|-----|
| 例 | 見る | 「他」 | ↑ | 「自」 | ↓ | 見える |
| (1) | 消える | 「自」 | ↑ | 「他」 | ↓ | 消す |
| (2) | 始める | 「他」 | ↑ | 「自」 | ↓ | 始まる |
| (3) | 離す | 「他」 | ↑ | 「自」 | ↓ | 離れる |
| (4) | 育つ | 「自」 | ↑ | 「他」 | ↓ | 育てる |

全ての動詞に自動詞と他動詞の対応があるわけではありません。



③ 可能動詞

・この本なら僕にでも読める。

例文の「読める」は、「読むことができる」の意味の動詞です。このように「〜できる」という可能の意味がある動詞を**可能動詞**といいます。可能動詞は、五段活用の動詞をもとにした下一段活用の動詞です。命令形はありません。(動詞の活用についてはP18以降で学習します)

- ・読む (五段) — 読める (下一段)
- ・歩く (五段) — 歩ける (下一段)

④ 補助動詞 (形式動詞)

・咲いている。 ・ 行つてみる。

例文の「いる」「みる」のように、本来の「いる (存在する)」「見る」などの意味が薄れ、上の言葉に意味を補う動詞を**補助動詞 (形式動詞)**といいます。補助動詞はひらがな書きを原則とします。このほかに、「ある・あげる・もらう・やる・くれる・しまう・おく」などがあります。

⑤ 複合動詞

名詞・動詞・形容詞の語幹 (詳しくはP19参照) が付いて、一つの動詞を作ったものを**複合動詞**といいます。

- ・名 づける ・ 勉強 する (名詞+動詞)
- ・結び 付く (動詞+動詞)
- ・近 寄る (形容詞の語幹+動詞)

活用する言葉の変化しない部分を**語幹**といいます。



(詳しくはP19参照)

③ 次の動詞を可能動詞に直しなさい。

例 買う (買える) ()

(1) 書く (書ける) () (2) 話す (話せる) ()

(3) 飛ぶ (飛べる) () (4) 泳ぐ (泳げる) ()

④ 次の文の補助動詞 (形式動詞) に—線を引きなさい。

(1) 友達への手紙を書いている。

(2) 話を聞いてみると、意外に複雑だった。

(3) テストのために、日ごろから勉強しておく。

(4) 分からないことを教えてあげる。

⑤ 次の文の複合動詞に—線を引きなさい。

(1) 山の中で遊び回る。

(2) 細胞の仕組みを研究する学者。

(3) 手紙に宛名を書き忘れる。

(4) みんなでアイデアを出し合う。

(5) 長引く入院に嫌気がさした。

(6) 突然の物音に身構える。

(二) 形容詞

- ・海はとても広がった。
 - ・彼は優しい。
 - ・暗い夜道を歩く。
 - ・砂糖で甘く煮る。
- 例文の「広かっ」「暗い」「優しい」「甘く」が形容詞です。
- (状態) (性質)

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

補助形容詞 (形式形容詞)

- a その公園にはブランコがない。
 - b その公園は広くない。
- aの「ない」は「無い」という意味ですが、bの「ない」は「広く」に打ち消しの意味を添えています。形容詞本来の意味を失い、上の文節を助け、意味を補う役割をもった形容詞を補助形容詞 (形式形容詞) といいます。「ない」のほかに「ほしい」や、「よい」などがあります。

補助形容詞の見分け方

- ・「ない」の上に「は」が入る。
 - 時間がない。 ↓ ×時間がはなし。
 - 早くない。 ↓ ○早くはなし。
 - 静かでない。 ↓ ○静かではない。
 - 「〜で、+補助形容詞」の形で使われる。
 - 梅干しは体によい。(形容詞) もっと時間がほしい。(形容詞)
 - 教科書を見てよい。(補助形容詞) もっとがんばってほしい。(補助形容詞)
- ※補助形容詞は、ひらがな書きを原則とします。

補助形容詞の前に「〜は」「〜も」を入れることができます。 「〜で…」でつながったりしていますね。



学習を確かめよう

① 次の単語の中から形容詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 涼しい イ 考える ウ 静かだ エ 暖かい
- オ 走る カ 感じる キ 終わり ク 美しく
- ケ 戦い コ 細やかな カ 楽しい シ おはよう

② 次の——線部が補助形容詞であるものを一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- (1)
- ア 願いを聞き入れて、仲間の一人に入れてほしい。
- イ こんなに暑くては、水かお茶がほしい。
- ウ 水分補給するときは、塩分もほしい。
- エ ほしかった本が売り切れてしまった。
- (ア)
- (2)
- ア 彼女は非の打ちどころのない母親である。
- イ 東京に比べるとあまり寒くない。
- ウ これぐらいしか弟を喜ばせる方法がなかった。
- エ あの手紙は、今はもうない。
- (イ)
- (3)
- ア 夏休みの課題は計画的にやるのがよい。
- イ 体調が悪いのなら、体育の授業を見学してよい。
- ウ 困ったときには相談した方がよい。
- エ 心に浮かんだことをそのまま詩に表せばよい。
- (イ)

(三) 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。 (状態)
- ・彼はほがらかだ。 (性質)

例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

形容動詞の語幹

- ア 語幹だけで言い切ることがあります。(「だ」を省略した形)
 - ・まあ、きれい。
 - ・これは、立派。
- イ 語幹だけを名詞として用いることがあります。
 - ・小さな親切が、感謝された。
- ウ 形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。



形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているのですが、区別はほとんどありませんが、活用のしかた (P 23 と P 24 参照) に違いがあるので、独立した品詞として考えます。

学習を確かめよう

① 次の語句の中から形容動詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| ア | 親切だ | イ | 中学生だ | ウ | 立派だ | エ | おそろしく |
| オ | 鮮やかだ | カ | 小さな | キ | まるで | ク | 困難な |
| ケ | 嵐だ | コ | ゆっくり | サ | のどかな | シ | いろいろな |

② 次の——線部が形容動詞であるものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 彼は穏やかな性格なので、親しまれている。
- イ 昨日は雨だったから、今日は涼しい。
- ウ 大きな声であいさつをすると気持ちがよい。

(ア)

形容動詞と名詞の見分け方

形容動詞……「どんなだ」を表す

この町は平和だ (形容動詞の終止形)

名詞……「何だ」を表す

この町に必要なのは平和だ (名詞+助動詞の「だ」)

見分けた言葉の直前に「とても」などを入れると、区別できることが多いです。「とても」が入る場合は形容動詞、入れると自然になるものは「名詞+だ」です。



二 活用しない自立語

(一) 名詞

- ・山に 登る。
 - ・ヨーロッパに 旅行する。
 - ・時刻は ちょうど 三時です。
 - ・そこでは、不思議な ことが 起きる。
- 例文の「山」「ヨーロッパ」「時刻」「三時」「そこ」「こと」が名詞です。

名詞とは

・自立語で活用がなく、「が・は・も」などをともなって文の主語となることができません。
 ・主として、生き物・物・事柄を表します。

1 名詞の種類

- ① 普通名詞……ある種類に属する事物を広く表す。
- ・父と 山に 登る。
 - ・少年よ 大志を 抱け。
 - ・菜の花や 月は 東に 日は 西に
- ② 代名詞……人・物・場所・方向などを指し示す。
- ・「あそこにいるのは誰だい。」
 - ・「どこ。ここからじゃ、遠くてわからないわ。」
 - ・「ほら、こっちへ歩いてくる男の子だよ。」
 - ・「ああ、彼は健太君だわ。」

学習を確かめよう

① 次の文の——線部の代名詞が指す言葉を書きなさい。

- (1) 田中さん、あなたは歌がうまいのねえ。
 () 田中さん
- (2) 家の前にみかんの木があって、弟はそれを見上げていた。
 () (みかんの) 木
- (3) りんご、いちご、バナナ、これらは父の好物です。
 () りんご、いちご、バナナ

② 次の文から代名詞を見つけ、全て——線を引きなさい。

- (1) あなたはどちらの出身ですか。
- (2) これはもういらぬから、あっちへやってください。
- (3) こちらに走ってくるのが、私の弟です。
- (4) その角を曲がった公園にいたのはどなたですか。

指示代名詞		人称代名詞			
方向	場所	事物	自称	対称	他称
こちら	こつち	これら	わたくし 僕	あなた おまえ きみ	話し相手に近い 近称
そつち	そこら	それら	私	あなた	話し相手に近い 中称
あつち	あそこら	あれら	あなた	あなた	遠い 遠称
どつち	どこら	どれ	あなた	あなた	不定称
どつち	どつち	どつち	あなた	あなた	不定称

③ 固有名詞……人名・地名・国名・書名など、特定の物事の名前を表す。

・私は夏目漱石の「坊っちゃん」を四国の旅行中に読んだ。

・日本を代表する古典文学の一つに「源氏物語」がある。

④ 数詞……物の数量や順序を表す。数字を含む。

・三個で百円のお菓子をかう。

・合唱コンクールで第一位となる。

・一袋が百グラムの砂糖を三つも買って来た。

・三対二で勝った。

⑤ 形式名詞……本来の意味が薄れ、常に連体修飾語を付けて使われる。

・ちようど今着いたところです。

・彼は、来るはずだ。

・彼女の言ったとおりになった。

・ぼやぼやしているうちに、通り過ぎてしまった。

・あなたも行ったほうがいいでしょう。



形式名詞には上にある語の意味を補う働きがあります。実質的な意味をもたないので、**ひらがな**で書きます。「**こと**、**とき**、**もの**、**ところ**」などがあります。

③ 次の——線部の名詞の種類を次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 普通名詞 イ 代名詞 ウ 固有名詞 エ 数詞 オ 形式名詞

(1) 佐藤さんはどこにでもいる少女の一人だった。
(ウ) (イ) (ア) (エ)

(2) 信号機は赤と青と黄色の三色が順番に変わります。
(ア) (エ)

(3) 「万葉集」は日本で最も古い歌集です。
(ウ) (ア)

(4) 今、社会のテスト問題を解いていたところです。
(ア) (オ)

(5) まちがいというものは、ないほうがよい。
(ア) (オ)

(6) 彼は今朝三時に家を出発し、富士山に登った。
(イ) (ア) (エ) (ウ)

(7) 豊橋駅から東海道本線の快速に乗って旅に出た。
(ウ) (ア) (オ)



2 その他

成り立ちによって次のように種類分けできる普通名詞もあります。

① 転成名詞……他の品詞から変化し、転じてできた名詞

- ・川の 流れが ゆるやかだ。
(動詞 流れる→流れ)
- ・彼女の 美しさに みとれた。
(形容詞 美しい→美しさ)
- ・この 穏やかさは 何だ。
(形容動詞 穏やかだ→穏やかさ)

② 複合名詞……二つ以上の単語が合わさって一語になったもの。

- ・春風 本箱 ガラス窓 夕日
(名詞+名詞)
- ・月見 山登り 夢占い
(名詞+動詞)
- ・歓迎会 聞き手 主催者
(動詞+名詞)
- ・食べ残し 泣き笑い
(動詞+動詞)
- ・浅瀬 大潮 高値 若葉
(形容詞+名詞)
- ・苦笑い 小走り 早咲き
(形容詞+動詞)
- ・白黒 遠浅
(形容詞+形容詞)

③ 接頭語・接尾語がついた名詞……一語として扱う。

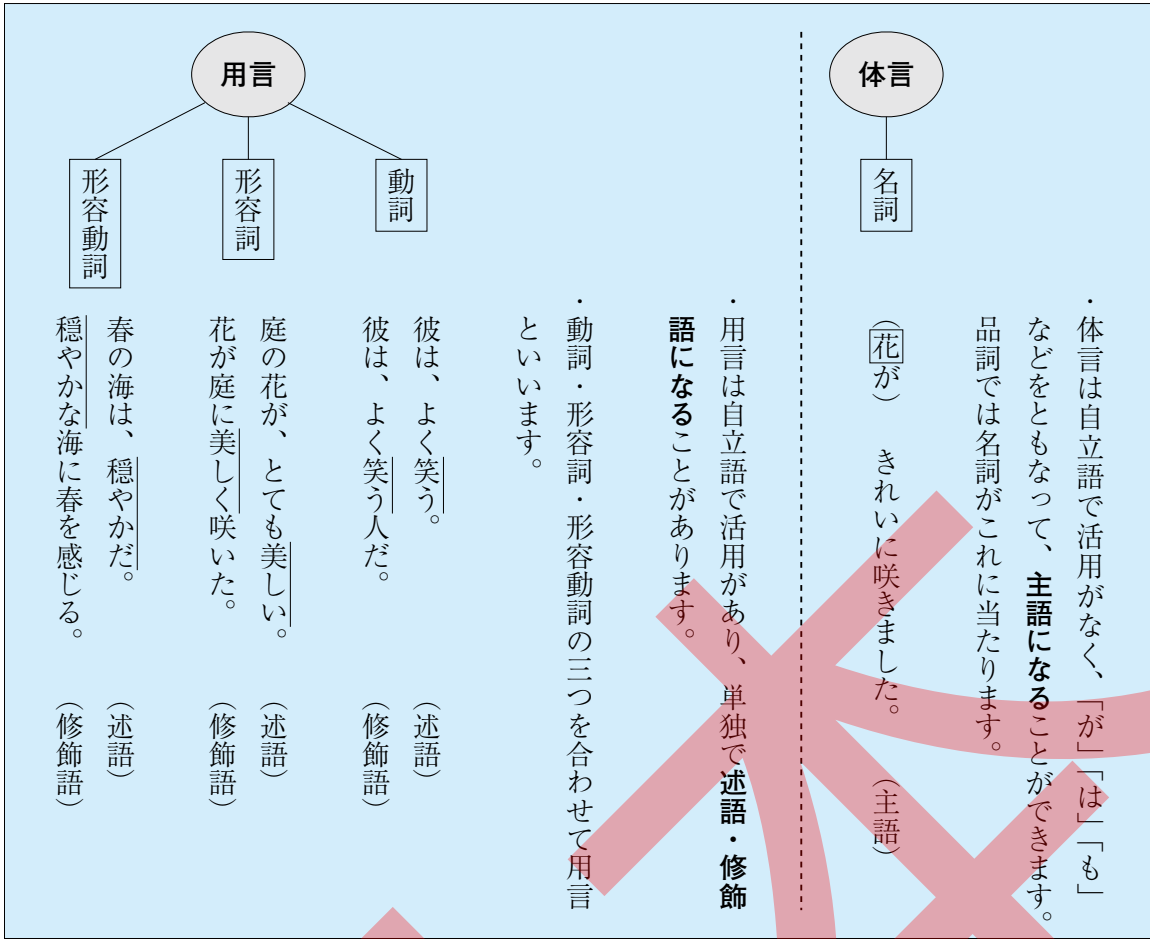
- ・ご飯 お茶 御意見 ど根性
(接頭語+名詞)
- ・先生方 母さん 仲間たち
(名詞+接尾語)

④ 次の——線を引いた転成名詞のものと言葉を()の中に書きなさい。

- (1) あの体操選手は、体の動きが実にしなやかだ。(動く)
- (2) 彼の体は怒りに震えていた。(怒る)
- (3) 満月の夜の明るさは、想像以上だった。(明るい)
- (4) 私たちは若さと情熱でがんばりとおした。(若い)
- (5) 私は、春の季節の穏やかさが好きだ。(穏やかだ)
- (6) 彼のまじめさは町中の評判だ。(まじめだ)

⑤ 次の文から複合名詞を選び、()の中に書きなさい。

- (1) 妹は最近、星占いに凝っている。(星占い)
- (2) テレビで紹介されたかき氷のお店を訪ねてみた。(かき氷)
- (3) 母の趣味はスイーツの食べ歩きだ。(食べ歩き)
- (4) 冬休みは家族でスキーに行く予定だ。(冬休み)
- (5) 海外に赴任する兄の土産話を聞くのが楽しみだ。(土産話)
- (6) 父は健康のために毎日早起きをしている。(早起き)



⑥ 次の名詞のグループから、種類の違うものをつづつ見つけ、記号に○をつけなさい。(5)は——線部)

- (1) ア パソコン イ ノート ウ プール エ エジソン
- (2) ア 優勝 **イ** 一位 ウ 大会 エ 野球
- (3) ア 太平洋 イ 日本 **ウ** 大陸 エ 北海道
- (4) ア 歴史 イ 社会 ウ 教科書 **エ** 鎌倉時代
- (5) **ア** 願いごと イ 書くもの ウ 見ること エ 言うとおりに
※「ア」と「イ」は「事」と表記することもできる。
- (6) ア 父 イ 弟 **ウ** 彼 エ お母さん

指示語・指示する語をまとめて「こそあど言葉」といい、次のものがあります。



こう	この	これ ここ こちら	こ	品詞
そう	その	それ そこ そちら	そ	
ああ	あの	あれ あそこ あちら	あ	
どう	どの	どれ どこ どちら	ど	
				副詞
				連体詞
				名詞

(二) 副詞

- ・牛がのんびり歩いている。
 - ・鈴虫がリーンリーンと鳴く。
 - ・少し待ってください。
 - ・優勝したなんて、まるで夢のようだ。
- 例文の「のんびり」「リーンリーンと」「少し」「まるで」が副詞です。

副詞とは

・自立語で、活用がありません。
・様子・状態・程度を表し、主として用言を修飾します。

1 副詞の性質

- a 新しい 校舎が ついに 完成する。 動詞
- b 全校集会は とても なごやかだ。 形容動詞
- aの「ついに」という副詞は「完成する」という動詞を修飾しています。また、bの「とても」は「なごやかだ」という形容動詞を修飾しています。このように用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾することを連用修飾といいます。副詞は、主に用言を修飾する連用修飾語になる言葉です。（例外もあります。P 13の3を参照）

2 副詞の種類

副詞は、働きの上から次のように分けられます。

- ア 状態の副詞（「どのように」という状態を表す）
- ・いなかの道はしばらく続いた。

学習を確かめよう



① 次の文から副詞を一つずつ抜き出し、下の（ ）の中に書きなさい。

- (1) まず失敗することもあるまい。 (まず)
- (2) 今日もやはり来た。 (やはり)
- (3) 漂流中はさぞつらかったことだろう。 (さぞ)
- (4) 大きな石を軽々と持ち上げた。 (軽々と)
- (5) 打球がぐんぐん伸びる。 (ぐんぐん)

② 次の文から、副詞を一つずつ見つけて——線を引き、（ ）の中にア「状態」、イ「程度」、ウ「呼応」の分類を記号で答えなさい。

- (1) 私は、ゆつたり旅行を楽しんだ。 (ア)
- (2) おそらく彼はやってくるだろう。 (ウ)
- (3) 駅で私はずいぶん待った。 (イ)
- (4) 彼は目をきらきらさせながら歩いてきた。 (ア)
- (5) 彼は、ずっと昔からの友達だ。 (イ)

・洪水はたちまち家を流した。

・子供が笛をプープー吹く。

・猫がニャーニャーと鳴く。

・花びらがひらひら散っている。

※擬音語・擬声語・擬態語は、全て状態の副詞に含まれます。

イ 程度の副詞 (「どのくらい」という程度を表す)

・今日のスピードはかなり速い。

・もっと速く走ろう。

・作家では夏目漱石がいちばん好きだ。

ウ 呼応の副詞 (下に決まった言い方がくる)

・まるで海のような湖だ。

・全然おもしろくない話だ。



呼応の副詞は、陳述の副詞とも呼びます。副詞の後ろにいつも決まった言葉を要求します。

3 用言以外を修飾する副詞

副詞は用言だけでなく、場所・方向・時間を表す体言や副詞を修飾することもあります。

a 休日の 学校は とても 静かだ。

b 魚が とても たくさん 釣れた。

a 救急車を すく 呼べ。

b すく 先の アパートへ 引っ越した。

(用言を修飾)

(副詞を修飾)

(用言を修飾)

(名詞を修飾)

③ 次の文の——線部の言葉に注意して、() () の中にあてはまる言葉を後ろの「 」の中から選んで書きなさい。

- (1) 明日はたぶん晴れる (だろう) 。
- (2) まさか負けることはある (まい) 。
- (3) たとえ負け (ても) 、全力でがんばろう。
- (4) 最近雨がまったく降ら (ない) 。
- (5) もし雨が降らなかつ (たら) 遠足へ行く。
「だろう・ても・ない・たら・まい」

④ 次の文の——線部の語について、副詞には「ア」、形容詞には「イ」、形容動詞には「ウ」とそれぞれの語の横に記号で書きなさい。

- (1) 海岸を美しくしたいと思い、毎日こつこつと、ごみを拾い続けた。 (イ) (ア)
- (2) にぎやかな街を歩いていると、僕の心もほんわかと温かくなった。 (ウ) (ア)
- (3) 乗組員たちは、たちまち小舟に乗り込み、どんどん沖へ出ていった。 (ア) (ア)

形容詞・形容動詞と副詞の見分け方

連体形「—い」「—な」の形を作ってみる。

- ・友達と楽しく話す。 (形容詞「楽しい」の連用形)
- ・楽しく (↓) 楽しい・×楽しな 「—い」ができる ⇒ 形容詞
- ・友達と愉快に話す。 (形容動詞「愉快だ」の連用形)
- ・愉快に (↓) ×愉快的・○愉快な 「—な」ができる ⇒ 形容動詞
- ・友達とにこのこと話す。 (副詞「にこのこと」)
- ・にこのこと (↓) ×にこのことい・×にこのことな

どちらでもない ⇒ 副詞

(三) 連体詞

- ・ある日のことです。
 - ・いろいろな花が咲いている。
 - ・あれがわが家です。
 - ・大きな川が流れている。
- 例文の「ある」「いろいろな」「わが」「大きな」が、連体詞です。

連体詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・連体修飾語にしかありません。

1 連体詞の性質

あの ^{名詞} 人が ^{名詞} 山田さんです。

大きな ^{名詞} 家を ^{名詞} 建てる。

二つの文で共通しているのは、どちらも「人」「家」という名詞を修飾していることです。このように体言(名詞)を修飾することを連体修飾といいます。連体詞は、その名のとおり、すぐ下の体言を修飾する連体修飾語になる言葉です。

連体詞には、次のようなタイプがあります。

〈形〉	〈語例〉
a「ただ」の形	たいした とんだ たった
b「の」の形	この その あの どの かの 例の ほんの
c「る」の形	ある さる きたる あらゆる いわゆる
d「な」の形	大きな 小さな いろんな おかしな
e「が」の形	わが

「た・だ・の・る・な・が」
(織田信長)と覚えると覚えやすいよ。



※例外として「あらぬ」のようなものもあります。

学習を確かめよう

① 次のア～シの単語の中から連体詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|------|-------|--------|--------|
| ア この | イ 明るい | ウ 元気な | エ いわゆる |
| オ あれ | カ 大きな | キ もっと | ク めっきり |
| ケ わが | コ つまり | カ タイした | シ あらゆる |

② 次の——線部の連体詞が修飾している体言を書きなさい。

(1) この道をずっとまっすぐ行けば、わが母校に着きます。

①(道) (2)(母校)

(2) 話があらぬ方向に進んでしまった。

(方向)

(3) 大きな木の下で、仲よく遊びましょう。

(木)

③ 次の文から連体詞を一つずつ抜き出し、下の()の中に書きなさい。

- (1) きたる二十日に体育大会が行われる。 (きたる)
- (2) 届かないとは、おかしな話だ。 (おかしな)
- (3) どの人に行ってもらおうか。 (どの)
- (4) これくらいならたいしたことはない。 (たいした)
- (5) ある朝、私は決心した。 (ある)

2 連体詞と他の品詞との識別

① 「ある」の識別

- ・ある田舎町のできごとだった。
- ・彼は経済力のある人だ。

連体詞
動詞

「ある」には、**連体詞と動詞**があります。識別のしかたは、次のとおりです。

- ① 連体詞……体言を修飾する連体修飾語で、活用しない。
 - ② 動詞……「存在する」意味で使われ、活用する。
- ※動詞の場合は「ない」に置き換えられます。

② 「大きな」と「大きい」の識別

- ・大きな木のある庭。
- ・大きい木のある庭。

連体詞
形容詞

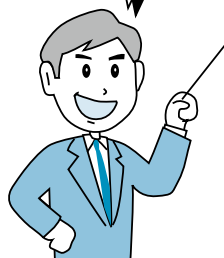
「大きな」と「大きい」は、右の例文のように同じ意味で使われます。しかし、「大きい」は**形容詞**で活用し（P 23参照）、「大きな」は**連体詞**で活用しません。同様に、次の言葉についても、連体詞と形容詞の区別をします。

- ・小さな（連体詞） 小さい（形容詞）
- ・おかしな（連体詞） おかしい（形容詞）

④ 次の——線部の中から連体詞を選び、記号で答えなさい。

- ア さる十五日、花火大会が行われた。 ()
 イ 今朝は、穏やかな日になった。 ()
 ウ 私は小さい犬が欲しい。 ()
 エ そんなおかしい話は聞いたことがない。 ()

「穏やかな」の言い切る形は、どうなるでしょう。言い切る形が「〜だ」となる言葉は、形容動詞ですよ。



⑤ 次の——線部の単語について、それぞれ品詞名を書きなさい。

- (1) その博物館には、たいへん珍しい標本がある。
- (2) 将来、いろいろな国へ行ってみたいと思う。
- (3) あまり細かいことを言うと、人から嫌われるよ。
- (4) 街角である人に道を尋ねられた。

- (1) () (2) ()
 (3) () (4) ()

(四) 接続詞

- ・ 学校へ行き、それから図書館へ行く。
 - ・ 彼女は出かけた。しかし、私は家にいた。
- 例文の「それから」「しかし」が接続詞です。

接続詞とは

- ・ 自立語で、活用がありません。
- ・ それだけで接続語になります。

接続詞は前後の文や語をつなぐ働きをする単語で、次のような種類があります。

接続詞の種類

種類	働き	接続詞
順接	前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。	それで・そこで・すると・したがって・それゆえ・ゆえに・だから
逆説	前に述べたこととは逆になることが後にくる。	しかし・だが・けれども・だけでも・ところが・が・それでも
並列・累加	前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。	そして・また・それから・および・なお・さらに・しかも
対比・選択	前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。	または・あるいは・もしくは・それとも・いっぽう
説明・補足	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	つまり・すなわち・ただし・なぜなら・例えば
転換	前に述べたことと話題を変える。	さて・ところで・では・ときに



学習を確かめよう

① 次の——線部は、どんな種類の接続詞か。あとの□から選び、記号で答えなさい。

- マラソンはつらい。だが、走り終わった後の気分は実にいい。 (イ)
- この用紙は、ボールペンまたは鉛筆を使って書きなさい。 (エ)
- 多数決の結果、杉山君の案が選ばれました。それでは、次の議題に移ります。 (カ)
- 昨日、ひなが一羽かえった。そして、今日、また一羽がかえった。 (ウ)
- 今日は天気がいい。だから、遠足に行く。 (ア)
- 私は、早く家に帰らなければならない。なぜなら、習いごとがあるからだ。 (オ)

ア 順接	イ 逆接	ウ 並列・累加
エ 対比・選択	オ 説明・補足	カ 転換

(五) 感動詞

・まあ、きれいな花だこと。

「まあ」のように、心が動いたときに思わず出る言葉があります。

このような感動や呼びかけを表す言葉を感動詞と呼びます。

感動詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・主語、述語、修飾語、接続語とならず、単独で独立語になります。

しかし、感動を表す言葉だけが感動詞ではありません。感動詞には、次に示すような種類があります。

応答

はい、こちらは鈴木です。

いや、その道は違うよ。

呼びかけ

おい、こちらへ来い。

もしもし、鈴木さんのお宅ですか。

感動

ああ、すばらしい景色だ。

おや、何か変だぞ。

挨拶

こんにちは、ごきげんいかがですか。

さようなら、お元気で。



挨拶は感動詞です。

感動詞は文の初めにくることが多いですよ。

学習を確かめよう

① 次の文から感動詞を見つけて——線を引き、それがあとの□のどれにあたるかを選び、記号で答えなさい。

- ほら、見てごらん。きれいな夕焼けだよ。 (イ)
- いいえ、私は鈴木ではありません。 (ア)
- 弟は手を振って叫んだ。「バイバイ。」 (エ)
- ねえ、宿題を終わらせたなら遊びに行こうよ。 (イ)
- おや、あなたは佐藤さんではありませんか。 (ウ)

ア 応答 イ 呼びかけ ウ 感動 エ 挨拶

② 次の () にあてはまる語をあとの□から選び、記号で答えなさい。

- (エ) お弁当を忘れてしまった。
- 用意はいいですね。(ウ) 始めましょう。
- (イ) 、そこで何をしているんですか。
- (ア) 、ちゃんと受け取りました。

ア はい イ もしもし ウ さあ エ あっ

Ⅲ 用言の活用

学習のねらい

◇ それぞれの「用言」はどのように活用するのかを理解する。

一 動詞

・手紙を書く。 朝早く起きる。 (動作)
 ・背が伸びる。 洗たく物が乾く。 (変化)
 ・猫がいる。 本がある。 (存在)
 例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

動詞とは

・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
 ・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

動詞と、次に学習する形容詞・形容動詞をあわせて用言といいます。

(一) 動詞の活用

読む

まだその本を読(ま)ない。
 僕は本を読(み)ます。
 彼も本を読(む)。
 よく本を読(む)人である。
 本をよく読(め)ば知識が広がる。
 たくさんの本を読(め)。
 たくさん本を読(も)う。

動詞は、右の例文のように後に続く言葉や、文中での働きによって、単語の終わりの()部分が「ま・み・む・め・も」のように規則的に変化します。これを活用といいます。活用の仕方は動詞によって異なります。

学習を確かめよう

① 次の——線部の動詞を、言い切る形に直しなさい。

- (1) 机の上に置いたはずの本が見つからない。
 (置く) (見つかる)
- (2) 昨日彼に会ったときに、「明日は早く来いよ。」と言われた。
 (会う) (来る) (言う)

② 次に示す単語を活用させて、()の中に適切な言葉をひらがなで書きなさい。ただし、*は命令する形で書きなさい。

- (1) 吹く
 ・夜に口笛を吹(か)ない。
 ・私は音楽会でトランペットを吹(き)ます。
 ・僕は、毎年お祭りで笛を吹(く)。
 ・楽器を吹(く)ときは扉を閉めよう。
 ・風が吹(け)ば桶屋がもうかる。
 *よく指揮を見て吹(け)。
- (2) 起きる
 ・みんなで一緒にリコーダーを吹(こ)う。
 ・時間になっても弟はまだ起(き)ない。
 ・母はいつも早く起(き)ます。
 ・僕は六時に起(きる)。
 ・早く起(きる)ときは調子がいい。
 ・早く起(きれ)ば、余裕がもてる。
 *早く起(きろ)。(きよ)。

1 語幹と語尾

動詞をいろいろな活用させたとき、常に変化しない部分を語幹といい、変化する部分を活用語尾といいます。

2 活用形

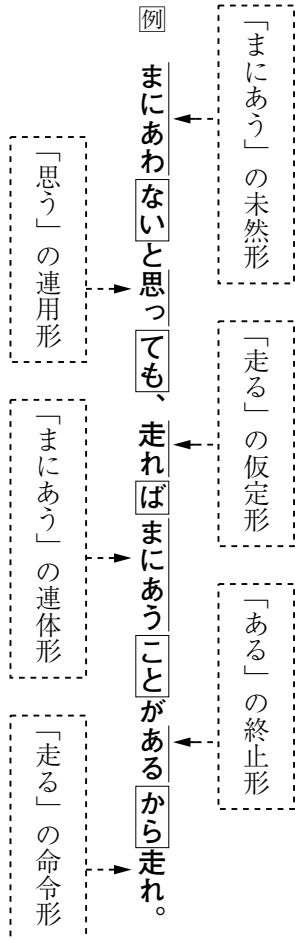
活用によって変化した単語の形を活用形といいます。動詞の活用形は、あとに続く形や言い切る形により、次の六つに分けられます。

「話す（はなす）」の活用

活用形	語幹	活用語尾
未然形	はな	さ
連用形	はな	し
終止形	はな	す
連体形	はな	す
仮定形	はな	ば
命令形	はな	せ

主な続き方（下に続く言葉）

ない(ぬ)・う・よう・れる・られる・せる・させる
 用言・ます・た(だ)・て(で)・、・たい・ながら・ても
 言い切る形・と・から・が・けれど
 体言・ので・のに
 ば(もし)ば
 命令して言い切る形



(3) 受ける

- ・相談を受（**け**）ない。
- ・相談を受（**け**）ます。
- ・親友から進路の相談を受（**ける**）。

- ・時折、相談を受（**ける**）ことがあった。
- ・相談を受（**けれ**）ば、気安く応じた。

(4) *誠実な態度で受（**ける**）。（**けよ**）。
来る

- ・時間になっても（**こ**）ない。
- ・彼は必ず（**き**）ます。

- ・約束の場所に彼が（**くる**）。
- ・彼が（**くる**）ころには、暗くなってしまうだろう。

(5) *早くこちらに（**こい**）。
運動する

- ・雨の日は運動（**し**）ない。
- ・運動（**せ**）ぬ日はない。
- ・十分運動（**さ**）せる。

・しっかり運動（**し**）てください。

・今日はしっかり運動（**する**）。

・運動（**する**）ときは、水分の補給をしっかりとしよう。

(3) *しっかり運動（**しろ**）。（**せよ**）。
次の——線部の動詞の活用形を（ ）に書きなさい。

- (1) 新聞を見れば、試合の結果がわかる。 () **仮定** 形
- (2) 犬を飼うことを、父が許してくれた。 () **連体** 形
- (3) まだ見ぬわが子への愛を詩につづった。 () **未然** 形
- (4) 強風でも、親鳥はえさを求めて飛ぶ。 () **連用** 形

「来る」「する」は、特殊な活用のしかたをするので、気を付けてくださいね。



(二) 動詞の活用の種類

日本語のかなを、その音をもとにして並べた図を五十音図と呼びます。この図の縦の並びを行(ぎょう)といい、横の並びを段(だん)といいます。

動詞の活用のしかたは、この五十音図をもとに、次の五種類に分けられます。

ナ行	タ行	サ行	カ行	ア行	行段
な	た	さ	か	あ	ア段
に	ち	し	き	い	イ段
ぬ	つ	す	く	う	ウ段
ね	て	せ	け	え	エ段
の	と	そ	こ	お	オ段

1 五段活用(五段)

五十音図のア・イ・ウ・エ・オの五つの段に沿って変化します。例えば、「吹く」は(カキケコ)で、活用するので五段活用といえます。左の図のように、活用形をまとめて一つの表にしたものを活用表といえます。

五段	活用の種類		活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	基本形	主な 続き方							
吹く	ふ	語幹	か	こ	き	く	く	け	け
			ない・ぬ う・よう れるらる るるるる	た(だ) て(で)	ます	。	ーとき ので	ーば	命令の 意味で 言い切 る

五段活用だけにある音便(おんびん)

五段活用(サ行以外)の連用形は、「た(だ)・て(で)・たり(だり)」が付くとき、発音しやすいように音が変化する場合があります。これを音便といいます。

- ・イ音便……「く・ぐ」などで終わる動詞 ※例外もあります
- ・促音便……「う・つ・る」などで終わる動詞
- ・撥音便……「む・ぬ・ぶ」などで終わる動詞

学習を確かめよう

① 次の五段活用の動詞の活用表を上表にならってひらがなで書いて完成させなさい。

基本形	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	語幹	主な 続き方						
置く	お	か	こ	き	く	く	け	け
飛ぶ	と	ば	ぼ	び	ぶ	ぶ	べ	べ
読む	よ	ま	も	み	む	む	め	め
走る	はし	ら	ろ	り	る	る	れ	れ
従う	したが	わ	お	い	う	う	え	え

② 次の線部の文節を音便に注意して正しく直しなさい。

- (1) 知らせを聞いて、私はすっかりあわてた。 (聞いて)
- (2) 決勝戦を勝ちて、優勝したいものだ。 (勝って)
- (3) 封筒から手紙を出して、すぐに読んだ。 (読んだ)

2 上二段活用(上二段)

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ上にある「イ段」の音で活用します。

3 下二段活用(下二段)

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ下にある「エ段」の音で活用します。

4 力行変格活用(力変)

他には類のない特別な活用をするので、力行変格活用(力変)といえます。カ変の動詞は「来る」の一語だけです。「来る」は語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

5 サ行変格活用(サ変)

サ行変格活用も、もともと「する」の一語だけです。漢語や外来語に「する」が複合した場合(複合動詞)も、サ変の動詞になります。

漢語+「する」……勉強する・運動する

外来語+「する」……スケッチする・メモする

サ変の動詞は語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

活用の種類	基本形	活用形		終止形	連体形	仮定形	命令形
		主な 続き方	未然形				
上二段	信じる	しん	じ	じる	じる	じれ	じろ
下二段	考える	かんが	え	える	える	えれ	えろ
力行変格	来る	こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ行変格	する	○	せし	する	する	すれ	せよ

※サ変の未然形「さ」には「れる」「せる」が続きます。

3 次の動詞の活用表を上表にならってひらがなで書いて完成させなさい。

活用の種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
上二段	生きる	い	き	きる	きる	きれ	きろ	きろ
上二段	見る	(み)	み	みる	みる	みれ	みろ	みろ
下二段	助ける	たす	け	ける	ける	けれ	けろ	けろ
下二段	寝る	(ね)	ね	ねる	ねる	ねれ	ねろ	ねろ
力行変格	来る	こ	き	くる	くる	くれ	こい	こい
サ行変格	する	○	せし	する	する	すれ	せよ	せよ

※「見る」や「寝る」のように、上二段・下二段の動詞には、語幹と活用語尾の区別できないものもあります。

活用の種類の見分け方

① 力行変格活用 ……「来る」の一語だけ。

② サ行変格活用 ……「する」と「する」

③ 動詞の未然形に接続する「ない」を付けたときの、活用語尾で見分けます。そのすぐ前の音に目を向けます。

ア	書	か	ない
イ	起	き	ない
ウ		く	
エ	受	け	ない
オ		こ	

五段 上二段 下二段



動詞の活用の種類の見分け方(動画)

基本問題

① 次の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

(五段・上一段・下一段・力変・サ変の略称でよい)

(1) 兄は希望の高校へ進学する。

(サ変)

(下一段)

(五段) (五段)

(2) ピッチャーが投げるカーブを打ち込んで勝った。

(上一段)

(力変)

(3) 背広を着た紳士が向こうから来る。

(五段)

(五段) (下一段)

(4) そのくらいの本は、読もうと思えば読める。

② 次の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

(仮定形)

(終止形)

(1) 野山を歩けば、気持ちもさわやかになる。

(連用形)

(連用形)

(2) 太陽の光を浴びて、暖かく感じた。

(未然形)

(命令形)

(3) 逃げないで、現実をしっかりと見つめる。

(連体形)

(終止形) (命令形)

(4) 勉強するときはテレビは消すと決めよう。

発展問題

① 次の文章中から動詞を八つ見つけ、——線を引きなさい。また、それぞれ終止形を書きなさい。

「努力すれば何でもできる。」兄はいつもこう言って私を励ましてくれた。すぐにあきらめてしまう私は、兄の言葉に何度も勇気づけられた。

努力する	できる	言う	励ます
くれる	あきらめる	しまう	勇気づける

② 次の——線部の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 吹く風アに秋の訪れイが感じられる。

(2) 「早く来い。」と、父エが言った。

(3) もっと勉強すれば、成績は上がるカ。

(4) 朝ごはんを食キべないで学校クに来た。

ア (五段) 活用 連体形 イ (上一段) 活用 未然形

ウ (カ行変格) 活用 命令形 エ (五段) 活用 連用形

オ (サ行変格) 活用 仮定形 カ (五段) 活用 終止形

キ (下一段) 活用 未然形 ク (カ行変格) 活用 連用形



動詞の活用形と活用の種類
練習問題

活用形は、19ページの表を参考に、下に続く言葉から考えましょう。



活用の種類は、21ページの「活用の種類の見分け方」を見て考えましょう。



二 形容詞・形容動詞

(一) 形容詞・形容動詞の活用

形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているのに、区別はほとんどありませんが、活用のしかたに違いがあるので、独立した品詞として考えます。

1 形容詞

- ・海はとても広がった。 暗い夜道を歩く。 (状態)
- ・彼は優しい。 砂糖で甘く煮る。 (性質)

例文の「広が」「暗」「優」「甘」が形容詞です。

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、それだけで述語や修飾語になります。

① 形容詞の活用

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
	主な 続き方 語幹	—う	—た —ない —なる —ございます	—	—とき —ので	—ば	—
明るい	明る	かる	う かっ く	い	い	けれ	○

※形容詞の活用の種類……一種類だけで、命令形はありません。

② 形容詞の音便

- ・今年の夏は暑うございます。(暑く↓暑う)
 - ・この料理は、おいしうございます。(おいしく↓おいしう)
- 「暑う」のように、形容詞の連用形に「ございます・ぞんじます」が続くとき、**連用形語尾の「く」が「う」に変わる**ことがあります。これを**ウ音便**といいます。「おいしう」のように、語幹が変化することもあります。

学習を確かめよう

① 次のア～ケの単語の中から形容詞を選び、記号を○で囲みなさい。

- | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|-------|
| ア | おいしく | イ | 細かい | ウ | おかしな |
| エ | 小さな | オ | 争い | カ | ほしい |
| キ | よい | ク | 細かな | ケ | あたたかい |

② 次の——線部の形容詞の活用形を答えなさい。

- | | | | | |
|-----|---|---|----|---|
| (1) | 自分は新しい <u>可能</u> 性を見つけたい。 | (| 連体 |) |
| (2) | 君がいなくなると、さぞ寂 <u>し</u> かろう。 | (| 未然 |) |
| (3) | 忘れ物に気づいたときにはもう遅 <u>か</u> った。 | (| 連用 |) |
| (4) | 試合に負けて悔 <u>し</u> ければ、より練習に励 <u>ま</u> う。 | (| 假定 |) |
| (5) | 君の言葉は何よりも頼 <u>も</u> しい。 | (| 終止 |) |

③ 次の文章中から、形容詞を五つ見つけて——線を引きなさい。

中学校の部活動を振り返ったとき、つらかった思い出、楽しかった思い出が入り混じってよみがえってくる。
 頑張っても結果が出ない。悔しい思いも多くしたが、最終的には、美しい経験として私の心に生き続けるだろう。

2 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。(状態)
- ・彼はほがらかだ。(性質)

例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、それだけで述語や修飾語になります。

① 形容動詞の活用

基本形	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
	主な 続き方	語幹						
静かだ	静か	静か	だろ	だっ に	だ	な	なら	○
静かです	静か	静か	でしょ	でし に	です	(です)	○	○

※形容動詞の活用……一種類だけ(丁寧な言い方では「です」で終わる)で、命令形はありません。

② 形容動詞の語幹の用法

- ア 語幹だけで言い切ることがあります。「だ」を省略した形
- ・まあ、きれい。
 - ・これは、立派。
- イ 語幹だけを名詞として用いることがあります。
- ・小さな親切が、感謝された。
- ウ 形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。

・あたたか
だ (形容動詞)
い (形容詞)

学習を確かめよう

① 次の——線部の形容動詞の活用形を書きなさい。

- どうしても必要ならば、申し出てほしい。(假定形)
- なんてきれいな夕日だろう。(連体形)
- 与えられた仕事をおろそかにしてはいけない。(連用形)
- 洗い立てのシャツは柔らかで気持ちがいい。(連用形)
- 急に色が変われば不思議だろう。(未然形)
- この皮の表面はともなめらかだ。(終止形)

形容動詞の中には「本当だ」のように形容動詞の活用の一部当てはまらない特殊なものもあります。
(例)「本当な」↓「本当の」



② 次の文章中から、形容動詞を四つ見つけて——線を引きなさい。

夏休みは楽しいことが多い。太陽の下、暑さなんか忘れて公園へ行く
と、そこには元気で陽気な仲間がいる。顔を赤くしながら鬼ごっこを
したり、木陰でにぎやかに語り合ったりする時間がたまらなくうれし
かった。大人になっても、このような時間は必要だろう。

① 次の文から、名詞を選んで——線を引きなさい。また□の中からあてはまるものを選んで、それぞれの記号を——線の右に書きなさい。

A	普通名詞	B	代名詞	C	固有名詞
D	数詞	E	形式名詞		

- (1) 雪が解け、ようやく北海道にも春がやってきた。
 (2) ダニエルが言ったとおりでした。
 (3) 新しい卵を十箱、岡崎のスーパーマーケットに届けた。
 (4) どこへ行ったって、地平線など見ることはできない。
 (5) それは彼女のおばあさんから聞いた話です。
 (6) この本は、だれのですか。

② 次の各組の文で、——線部の語の品詞名を書きなさい。

- (1) ア 彼の家には小さな庭がある。 (連体詞)
 イ 彼の家には小さい庭がある。 (形容詞)
- (2) ア ある朝、珍しい色の花が咲いた。 (連体詞)
 イ 机の上には一枚の葉書が置いてある。 (動詞)
- (3) ア この品物はさる高貴なお方にさしあげる献上品だ。 (連体詞)
 イ 私は「去る者は追わず」と思っている。 (動詞)
- (4) ア あの、今何時かわかりますか。 (感動詞)
 イ あの場面はもう一度見てみたい。 (連体詞)
- ③ 次の()にあてはまる接続詞をあとの□から選び、記号で答えなさい。
- (1) 東京に行った。(ウ)、横浜にも行った。
 (2) 雨が降ってきた。(イ)、大会は続けられた。
 (3) 涼しくなったね。(カ)、今日は何の用ですか。
 (4) 剣道を続けるか。(エ)、野球をやるか。

ア	だから	イ	しかし	ウ	また
エ	それとも	オ	つまり	カ	ところで

④ 次の文章中から形容詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) 私は中学生のころ、南極の写真を見て、大きくなったら南極の自然を研究したいと思った。しかし、当時の日本はまだ貧しく、海外調査に出かけるなど夢のまた夢の話だった。

(2) 怖かったね。補助輪がないから不安定だし、坂道はきつい。

(3) 彼のおじさんは、先日、湖に近い大きな森に入り、太い杉の木を切りました。

(3)	(2)		(1)
近い	きつい	怖かつ	大きく
連体形	終止形	連用形	連用形
太い		ない	貧しく
連体形		終止形	連用形

⑤ 次の各組の——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の証言にはおかしな点がいくつかある。(連体詞)
 イ 彼の証言にはおかしい点がいくつかある。(形容詞)

(2) ア あの海は、昔とても美しくかった。(形容詞)
 イ あの海は、昔とてもきれいだっ。(形容動詞)

⑥ 次の文から形容動詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) ロマンチックな映画だったが、ストーリーは複雑だった。

(2) 朝からさわやかなあいさつをして、元気に登校しましょう。

(3) 彼らが真剣ならば、予選通過は簡単だろう。

(3)	(2)	(1)
真剣なら	さわやかな	ロマンチックな
仮定形	連体形	連体形
簡単だろ	元気に	複雑だっ
未然形	連用形	連用形

⑦ 次の各組の文で、——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。(形容詞)
 イ 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。(形容動詞)

(2) ア 彼にとって大切な仕事である。(形容動詞)
 イ 彼にとって大きな仕事である。(連体詞)

(3) ア 電車はすでに駅を出たあとだった。(副詞)
 イ 電車は静かに駅を出たあとだった。(形容動詞)

IV 付属語

一 付属語の種類

(一) 助動詞

- 例 私は詩を書く。
 (1) 私は詩を書かない。
 (2) 私は詩を書きます。
 (3) 私は詩を書きたい。
 (4) 私は詩を書いた。
- 「ない」を加えて意味を否定する。
 「ます」を加えて丁寧な表現にする。
 「たい」を加えて希望を表す。
 「た」を加えて過去のことを表す。

例のように、「ない」「ます」「たい」「た」などの単語を付け加えることによって、「書く」にいろいろな意味を添えることができます。これらの単語を助動詞といいます。

助動詞とは

・付属語で、活用があります。
 ・用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりします。

- (1) 彼も本を読みたかろう。(未然形)
 (2) 彼は本を読みたかった。(連用形)
 (3) 私は本を読みたくなる。(連用形)
 (4) 私は本を読みたい。(終止形)
 (5) これは私の読みたい本だ。(連体形)
 (6) 本が読みたければ図書館へ行け。(仮定形)



このように、「たい」という助動詞は、形容詞とよく似た活用をします。
 ほかに動詞や形容動詞に似た活用をしたり、独自の活用をしたりする助動詞があります。

学習のねらい

◇ 助動詞・助詞はどのように分類され、それぞれどのような働きをするのか理解する。

学習を確かめよう

① 次の動詞を例にならってひらがなで空らん に書きなさい。

例	読む	せる・させる	れる・られる	う・よう
(1)	行く	いかせる	いかれる	いこう
(2)	着る	きさせる	きられる	きよう
(3)	食べる	たべさせる	たべられる	たべよう
(4)	する	させる	される	しよう
(5)	来る	こさせる	こられる	こよう

② 次の文の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 私の家のねこが、急に姿を消した。
 (2) 父は、急用ができて東京に出かけるらしい。
 (3) 日本には、外国からの輸入品がたくさんあります。
 (4) 母は、絶対に飛行機に乗らないと言っているそうだ。

① れる・られる 受け身、可能、尊敬、自発の助動詞

- ・友達に慕われる。
- ・友達から教えられる。
- ・すぐに覚えられる。
- ・先生が本を読まれる。
- ・おじさんが来られる。
- ・故郷が思い出される。
- ・父のことが案じられる。

受け身 (〜に〜される) の意味を表す)

可能 (〜することが出来る) の意味を表す)

尊敬 (〜なさる) という、他を敬う意味を表す)

自発 (「自然に〜する」の意味を表す)



最近増えている話し方に、「すぐに覚えれるよ。」「君にも見れるよ。」があります。これらをいわゆる「ら抜き言葉」といいます。本来は「覚えられる」「見られる」です。
五段活用とサ行変格活用は「れる」「その他の活用は「られる」が続きます。

② せる・させる 使役(人に命じてさせる意味)の助動詞

- ・本を読ませる。
- ・もう少し詳しく調べさせる。
- ・明日は彼女にも来させよう。

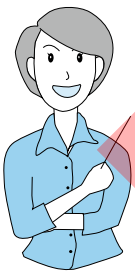
学習を確かめよう

① 次の——線部の「れる」「られる」は、A 受け身 B 可能 C 尊敬 D 自発のどれにあたるか、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 一時間ぐらいでふもとまで下りられる。 | () |
| (2) 写真を見ると母のことが案じられる。 | () |
| (3) ぼんやりしていて、人に追い越される。 | () |
| (4) おじさまはときどき目をつぶって考えられる。 | () |
| (5) 先生から頼りになるとほめられた。 | () |
| (6) 夏にいつも思い出されるのは、あの山の風景だ。 | () |
| (7) 友に支えられて、ここまでやってきた。 | () |

② 次の——線部を、助動詞を使って使役の意味になるように書き直なさい。

- | | | |
|---------------------|-----|-------|
| (1) すぐにやめるように指示をした。 | () | やめさせる |
| (2) これを見るとよい。 | () | 見させる |
| (3) 三時に来ればまに合う。 | () | 来させる |
| (4) 熱があるので薬を飲む。 | () | 飲ませる |
| (5) 今から勉強します。 | () | 勉強させる |



「れる」「られる」と同じように、五段活用とサ行変格活用は「せる」「させる」、その他の活用の種類には「させる」が続きます。「見せる」「着せる」などはそれだけで一つの動詞です。

③ たい・たがる 希望の助動詞

- ・私はカレーライスが食べたい。(自分が希望する意味を表す)
- ・弟はしきりに帰りたいがる。(第三者が希望する意味を表す)

④ ない・ぬ(ん) 否定(打ち消し)の助動詞

- ・もう一か月も雨が降らない。
- ・雨の降らぬ月はない。



否定の助動詞「ない」は、「ぬ」に置き換えられます。
 形容詞の「ない」と区別しましょう。

「ない」の識別

- ① 今日(けふ)は宿題がない。(形容詞)
- ② 今日(けふ)は宿題が多く(は)ない。(補助形容詞)
- ③ 今日(けふ)の宿題はわからない。(助動詞)

⑤ う・よう 推量、意志、勧誘の助動詞

- ・彼も行きたいだろう。(推量の意味を表す)
- ・早く起きようと思う。(意志の意味を表す)
- ・さあ、外に出かけよう。(勧誘……誘いかける意味を表す)

③ 次の文の()に希望の助動詞を入れ、文を完成させなさい。

- (1) こんなに走り続けたら、水が飲み(たく)なる。
- (2) テレビゲームで遊び(たい)が、勉強しよう。
- (3) 外国人が写真を撮り(たがっ)ている。
- (4) うちのポチがごはんを食べ(たがら)ないの。

④ 否定の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 大切なことは言わなければわからない。
- (2) 練習せずに勝てるわけがない。
- (3) 約束は守らねばならない。
- (4) 知らぬが仏とはよく言ったものだ。
- (5) 中学生になると外で遊ばなくなる。
- (6) 山頂の宿で流れ星を見なかったことはない。



⑤ 次の——線部の助動詞の意味を書きなさい。

- (1) 君もいっしょに遊ぼう。(勧誘)
- (2) 宿題を終わらせてからテレビを見ようと思う。(意志)
- (3) 練習もこれからはますます厳しくなるだろう。(推量)

⑥ た(だ)

過去、完了、存続、想起の助動詞

- ・昨日まで元気だったのに。(過去 過ぎ去った動作や現象を表す)
- ・いま、着いたばかりである。(完了 たった今動作が完了したことを表す)
- ・こわれた筆箱がある。(存続 「〜ている」「〜である」、その状態が今も続いているという意味を表す)
- ・これは君のだったね。(想起 過去にあったことを思い起こすという意味を表す)

⑦ ます

丁寧の助動詞

- ・必ずお知らせします。

「ます」の命令形「ませ」
 「ませ」は、「いらっしゃる・おっしゃる・くださる・なさる」など、敬意を表す語に付きます。

例 いらっしゃいませ。

⑧ らしい

推定の助動詞

- ・明日はどうかやら雨らしい。

「あの子の行動はいかにも子どもらしい」の「らしい」は形容詞「子どもらしい」の語尾です。



⑥ 次の例文の——線部「た」と同じ意味のものをあとのア〜エから選び、記号で答えなさい。

例 窓辺に置かれた花が美しい。 ※存続

- ア 昨夜はとても暑かった。
- イ あなたは、鈴木さんでしたね。
- ウ 壁にかけられた絵を鑑賞する。
- エ ちょうど今、作品ができたところです。

⑦ 次の——線部で、推定の助動詞でないものをつ選び、記号で答えなさい。

- ア だれも原因を知らないらしい。
- イ 彼女が、どうやらリーダーらしい。
- ウ 彼の研究への姿勢はとても学者らしい。 ※形容詞の語尾

⑧ 次の例文の——線部を、助動詞を使って次の(1)〜(5)の意味に書き直しなさい。

例 彼は、プールに入る。

- (1) 丁寧の意味を表すように。 () 入ります
- (2) 希望の意味を表すように。 () 入りたがる
- (3) 過去の意味を表すように。 () 入った
- (4) 否定の意味を表すように。 () 入らない・入らぬ
- (5) 推定の意味を表すように。 () 入るようだ・入りそうだ

⑨ ようだ
ようです
推定、**比喩**の助動詞

- ・どうやら性格はまじめな**ようだ**。(推定の意味を表す)
- ・まるで花が咲いた**ようだ**。(比喩の意味を表す)

⑩ そうだ
そうです
推定・**様態**(物事の様子や状態から推し量る)の助動詞
伝聞(他の人から聞いたこと)の助動詞

- ・明日は雨が降り**そう**だ。(推定・様態の意味を表す)
- ・明日は雨が降り**そう**だ。(伝聞の意味を表す)

⑪ まい
否定(打ち消し)の意志、**否定の推量**の助動詞

- ・もう決して泣く**まい**。(否定の意志「くないようにしよう」の意味を表す)
- ・明日は雨は降る**まい**。(否定の推量「くまないだろう」の意味を表す)

⑫ だ・です
断定(物事を確かなこととして言い切る意味)の助動詞

- ・これは教科書で、あれがノート**だ**。
- ・おじさんは狩りの名人**です**。



「だ」を「な」に置き換えられるのが形容動詞です。
・昨日、公園で遊**んだ**。(過去の助動詞「た」)
・今夜はとても静**かだ**。(形容動詞の語尾)

⑨ 次の——線部の助動詞を、A推定の助動詞とB比喩の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 彼女の**よう**ない人は**い**ない。() (B)
- (2) 事件のことをみんな知**つて**いる**よう**だ。() (A)
- (3) この寒さは冷蔵庫の中**に**いる**よう**だ。() (B)

⑩ 次の——線部の助動詞を、A推定・様態の助動詞とB伝聞の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 来月くらいから寒**く**なり**そう**だ。() (A)
- (2) もうすぐ彼も来**る****そう**だ。() (B)
- (3) 彼女ならでき**そう**なので、任**せ**ることに**し**た。() (A)

⑪ 次の——線部の助動詞の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 彼は少しも笑**わ**ない。() (A)
 - (2) ジェットコースターほど怖**く**ありませ**ん**。() (A)
 - (3) そんなことはある**ま**い。() (U)
 - (4) 仕事をせね**ば**、生活が成**り**立た**ぬ**。() (A)
 - (5) もうあの本は読**ま**い。() (I)
 - (6) さよならも言**わ**ず**に**彼は去**つ**てい**つ**た。() (A)
- ア 否定(打ち消し) イ 否定の意志 ウ 否定の推量

⑫ 次の——線部で断定の助動詞を三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼は僕**の**親友**だ**。
 - イ 彼女は**と**ても親切**だ**。
 - ウ ここは居間**で**、向こうが台所**だ**。
 - エ 湖は静**か**だ**つ**た。
 - オ 彼女は以前、医者**だ**つ**た**。
 - カ 昨日、庭**で**転**ん**だ**。**
- (A・ウ・オ)

勧誘 意志 推量		否定 (打ち消し)		希望		使役		自発 尊敬 可能 受け身		意味	助動詞活用表
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる	基本形	
投げよう	行こう	知らぬ	知らない	見たがる	覚えたい	やめさせる	働かせる	投げられる	聞かれる	用例	
○	○	○	なかる	たがら たがる	たかろ	させ	せ	られ	れ	未然形	
○	○	ず	なかつ なく	たがり たがっ	たかつ	させ	せ	られ	れ	連用形	
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる	終止形	
(よう)	(う)	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる	連体形	
○	○	ね	なけれ	たがれ	たけれ	させれ	せれ	られれ	れれ	假定形	
○	○	○	○	○	○	させよ させろ	せよ せろ	られよ られろ	れよ れろ	命令形	



助動詞は、それぞれこの活用表のように活用します。参考にしましょう。

断定		否定の意志 否定の推量		伝聞		推定 様態		推定 比喩		推定	丁寧	想起 存続 完了 過去	意味
です	だ	まい	そうです	そうだ	そうです	そうだ	ようです	ようだ	らしい	ます	た(だ)	基本形	
学校です	学校だ	行くまい	降るそうです	降るそうだ	降りそうです	降りそうだ	降るようです	降るようだ	雨らしい	始まります	書いた	用例	
でしょ	だろ	○	○	○	そうでしょ	そうだろ	ようでしょ	ようだろ	○	ませ ましょ	たろ (だろ)	未然形	
でし	だっ	○	そうでし	そうで	そうでし	そうだっ そうに	ようでし	ようだっ ように	らしかつ らしく	まし	○	連用形	
です	だ	まい	そうです	そうだ	そうです	そうだ	ようです	ようだ	らしい	ます	た(だ)	終止形	
(です)	(な)	(まい)	(そうです)	○	(そうです)	そうな	(ようです)	ような	らしい	ます	た(だ)	連体形	
○	なら	○	○	○	○	そうなら	○	ようなら	○	ますれ	たら (だら)	假定形	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ませ) (まし)	○	命令形	

(二) 助詞

学習を確かめよう 

・犬（ ） 猫（ ） 追いかけた。
 右の（ ）の中にはどんな言葉が入るのでしょうか。
 (1) 犬(が) 猫(を) 追いかけた。
 (2) 犬(を) 猫(が) 追いかけた。
 このように、（ ）に入れる言葉によって、追いかける側と追いかける側が逆転してしまいます。「が」や「を」は、語句と語句がどのような関係にあるのかを示しているのです。
 この「が」「を」のような言葉を助詞といいます。

助詞とは

・付属語で、活用がありません。
 ・語句と語句の関係を示したり、いろいろな意味を付け加えたりします。

種類

- ① 格助詞……主として体言に付く。
 (例) の、が、を、に、へ、と、から、より、で、や
- ② 副助詞……いろいろな語句に付く。
 (例) は、も、こそ、さえ、でも、だって、まで、しか、だけ
- ③ 接続助詞……主として用言や助動詞に付く。
 (例) ば、と、ので、から、が、けれど、のに、ても、て、ながら
- ④ 終助詞……文や文節の終わりに付く。
 (例) か、の、かしら、な、ね、さ、よ、や、ぞ、わ

① 次の文の助詞に——線を引きなさい。

彼は胸のポケットから、古い大きな万年筆と小さな紙切れを取り出して、メモをしながら私の話を聞いていたよ。

② 次の——線部の助詞の種類をあとのもう一つの□から選び、記号で答えなさい。

- (1) 今度こそ勝ちたい。 () イ ()
- (2) こんなやり方でいいのか。 () エ ()
- (3) 私もそう思います。 () イ ()
- (4) この手紙を持っていく。 () ウ ()
- (5) 辛いけれど、完食した。 () ウ ()
- (6) 先生が姉と話をする。 () ア ()
- (7) 私は大声で叫びたい。 () イ ()
- (8) 話せばわかってもらえるよ。 () ウ ()
- (9) 六時までに起きる。 () イ ()
- (10) どんなに寒かろうと、上着は着ない。 () ウ ()
- (11) 駅から十分のところにある。 () ア ()
- (12) こんなことはやりたくないや。 () エ ()

ア 格助詞 イ 副助詞 ウ 接続助詞 エ 終助詞

① 格助詞 文節と文節の関係を示します。主として体言に付きます。

- の
- ・私が出した手紙。
 - ・遠くの山を眺める。
 - ・私は泳ぐのが好きだ。
 - ・よい悪いのと文句を言う。
 - ・人が歩いてる。
 - ・食べものがほしい。
 - ・本を読む。
 - ・家を出発する。
 - ・船で川を渡る。
 - ・学校に行く。
 - ・十一時に寝る。
 - ・雪がとけて水になる。
 - ・講演を聞きに行く。
 - ・車にぶつけられる。
 - ・北へ南へ走りまわる。
 - ・駅へ行く。
 - ・兄と買物に行く。
 - ・トラとライオンと象がいる。
 - ・四月から高校生となる。
 - ・天才とたたえられた。
 - ・友達と話す。
 - ・九時から会議が始まる。
 - ・車から顔を出す。
 - ・原油からガソリンを作る。
 - ・事故は信号無視から起こった。
 - ・太郎は次郎より大きい。
 - ・ここより先は進めません。
 - ・五時ですべては終了する。
 - ・木でおもちを作る。
 - ・筆で字を書く。
 - ・かぜで学校を休む。
 - ・辞書や参考書で調べる。
- が
- ・主語を示す
 - ・連体修飾語を作る
 - ・体言の代用||こと
 - ・並立
 - ・主語を示す
 - ・目的、対象
 - ・起点(場所)
 - ・移動する場所
 - ・場所
 - ・時間
 - ・作用の結果
 - ・動作の目的
 - ・相手
 - ・方向
 - ・場所
 - ・共同の相手(〜と共に)
 - ・並立
 - ・成り行きや結果
 - ・引用
 - ・相手
 - ・起点(時間)
 - ・起点(場所)
 - ・原料、材料
 - ・原因
 - ・比較の基準
 - ・限界
 - ・場所、時
 - ・材料
 - ・手段、方法
 - ・原因、理由
 - ・並立



(鬼) (戸) (出) (空) (部屋)
「をにがとよりで、からのへや」と言う覚えやすいよ。

③ 次の例文の「の」と同じ働きをするものをア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 父の作った料理は、思ったよりもおいしい。 ※主語を示す
- ア 雨が降るのを眺める。
- イ 大切なのは、親友をみつけることだ。
- ウ 花の咲く季節が近づく。
- エ 林に風の音が響く。
- (ウ)

④ 次の例文の「に」と同じ働きをするものをア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 ごみが目に入って痛い。 ※場所
- ア 太陽は静かに沈んでいく。 イ 毎年ふるさとに帰るはずだ。
- ウ 朝六時に起きる。 エ 水が凍って氷になる。
- (イ)

⑤ 次の例文の「から」と同じ働きをするものをア〜ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 いたずら心から、彼はそこに隠れて私を驚かすつもりでいた。 ※原因
- ア この事件があつてから、彼は小鳥のわなを作ることをやめた。
- イ 五匹の猫がいつべんに、塀からどつと落ちてきた。
- ウ 事件は父の持ち帰った小さな折り詰めから、始まった。
- (ウ)

⑥ 次の例文の「で」と同じ働きをするものをア〜ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- 例 台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。 ※原因
- ア 港は波も穏やかで、船出には絶好の日和だ。
- イ 家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。
- ウ 久しぶりの雨で、庭の草木も生氣を取り戻した。
- (ウ)

② 副助詞

さまざまな意味を付け加えます。
いろいろな語句に付きます。

か	だれか私を呼んでいる。 父か母が来ます。	不確かさ
やら	計画はどうなっているのやら。 泣くやら怒るやら。	選択
とか	地位とか名誉とかを重んじる。 お茶とか飲みませんか。	不確かさ
くらい	五分くらい待ってください。 今年こそがんばるぞ。	並立
こそ	大学生さえ解けない問題。 子どもにしかわからない。	並立
さえ	私だけがとり残された。 一人に二つずつ配ります。	例示
しか	お茶でも飲もう。	大体の程度
だけ	小学生でもできる問題。 子供にだってわかる。	強調
ずつ	君も困るが僕だって困る。 猫などの動物を飼う。	他の類推
でも	行くなり帰るなりしなさい。 十分ほど歩くと駅に着く。	限定
だって	二十人ばかり人が集まる。 寝てばかりいる。	限定
など	いま、家に着いたばかりです。 彼女は十五歳です。	大体の程度
なり	見るまでは信じません。 犬も猫もいる。	大体の程度
ほど	水も飲みたい。 彼とは話もしない。	大体の程度
ばかり	朝は七時まで寝ている。 友達にまで笑われた。	限定
まで	雨が降り、風まで吹く。	限定

不確かさ	不確かさ
選択	選択
不確かさ	不確かさ
並立	並立
並立	並立
例示	例示
大体の程度	大体の程度
強調	強調
他の類推	他の類推
限定	限定
割り当て	割り当て
例示	例示
他の類推	他の類推
強調	強調
例示	例示
選択	選択
大体の程度	大体の程度
大体の程度	大体の程度
限定	限定
動作の直後	動作の直後
取り立てる	取り立てる
限定	限定
並立	並立
他に同類がある	他に同類がある
強調	強調
限度 (限界、範囲)	限度 (限界、範囲)
極端な例	極端な例
累加	累加

⑦ 次の文の副助詞に、全て——線を引きなさい。

- (1) そのとき私は、水しかのどを通らないくらい疲れていた。
- (2) 小学生でも解けるような問題ばかりを集めた。
- (3) 彼さえいてくれれば、こんなに苦労することもなかった。
- (4) 一人ずつ十分ほどの休憩を取ってください。
- (5) 彼だけが来ない理由は、私だって知らない。

⑧ 次の例文の——線部の副助詞と同じ働きをするものを選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|-------|---------------------------------|-----|
| (1) 例 | 誰か <u>ここへ来たらしい</u> 。 ※不確かさ | (ウ) |
| ア | 辞書が参考書で調べる。 | |
| イ | 今年は海が山へ行きたい。 | |
| ウ | 何人が手伝ってくれたから助かった。 | |
| (2) 例 | 一年間で身長が <u>七センチばかり伸びた</u> 。 ※程度 | (ア) |
| ア | あと五分ばかりで開始です。 | |
| イ | いつも自分ばかりしかられてしまう。 | |
| ウ | 今、料理ができたばかりです。 | |
| (3) 例 | その花は、冬まで <u>枯れないでしょう</u> 。 ※限度 | (ウ) |
| ア | 妹にまで <u>ばかにされてしまった</u> 。 | |
| イ | 寒いと思ったら、やがて、雪まで降りはじめた。 | |
| ウ | 五時まで <u>駅で待っています</u> 。 | |

③ 接続助詞

上の部分と下の部分をつなぎ、その関係を示します。主として用言や助動詞（活用する単語）に付きます。

し	・ 頭もいいし、性格もいい。	・ 並立
たり(だり)	・ 見たり食べたり遊んだり。	・ 並立
から	・ 体調が悪いから休む。	・ 理由
ので	・ うるさいので出窓をしめる。	・ 理由
て(で)	・ 道が悪くて歩けない。	・ 原因、理由
	・ 頭もよくて、性格もいい。	・ 並立
	・ 歩いて学校へ行く。	・ 手段、方法
	・ 外で遊んでいる。	・ 補助の関係を作る
ば	・ 本も読めば、字も書く。	・ 並立
	・ 雨が降れば、かさがいる。	・ 条件
と	・ 暖かくなると花が咲く。	・ 順接
	・ 雨が降ろうと、僕は行く。	・ 逆接
が	・ 量も多いが、味もいい。	・ 並立
	・ 昼間は暑い、夜は寒い。	・ 逆接
ながら	・ 話しながら歩く。	・ 同時
	・ 知っていないながら教えない。	・ 同時
つつ	・ 痛い足をかばいつつ歩く。	・ 同時
なり	・ ひと目見るなり病気とわかった。	・ 同時
けれど	・ 質もいいけれど、値も高い。	・ 並立
	・ 秋になったけれど、暑い。	・ 逆接
のに	・ 春なのに、雪が降る。	・ 逆接
ても	・ 冬になっても、暖かい。	・ 逆接

- ⑨ 次の文の接続助詞に、() 内の数だけ——線を引きなさい。
- 自分を成長させてくれる助けはいろいろあるが、本はその大きなきっかけのひとつである。 (2)
 - 自分の考えがはっきりしないときは、文章に書いてみるとはっきりするものです。 (2)
 - 太陽がとても強く照りつけるので、木陰に入って絵を描いたり本を読んだりしていた。 (5)

⑩ 次の——線部の接続助詞と同じ働きをするものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- 国語もできれば、数学もできる。 ※並立 (イ)
- 春になれば、桜の花が咲く。
イ 文もうまければ、絵もうまい。
ウ 行きたくなければ、行かなくてもよい。
エ ちりも積もれば、山となる。
- 足が痛くて走れない。 ※原因・理由 (ア)
- 通路が狭くて通れない。
イ 電車に乗って、高校へ通う。
ウ 彼女は背が高く、姿勢がいい。
エ 公園で遊んでいる。
- このボールは小さいが重い。 ※逆接 (ウ)
- この服は形もいいが、色合いもいい。
- 小鳥が鳴いている。
- 彼は体は大きい弱い。
- 父の帰るのが遅い。

④ 終助詞

話し手や書き手の気持ちや態度を表します。
文や文節の終わりに付きます。

11 次の文の終助詞に、全て——線を引きなさい。

- (1) みんなが元気だと幸せだな。本当にうれしくなるよ。
- (2) これは、あなたのペンですか。
- (3) 君もいっしょにやらないか。きっと、楽しいぞ。

12 次の——線部の終助詞はどのような働きをしているか、あとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 出発まであと五分しかないから急ぎな。
- (2) 図書館では話をするな。
- (3) 外もだいぶ暗くなってきたから、そろそろ帰ろうか。
- (4) あなたは今度の休みに何をしますか。
- (5) いよいよ明日は本番だぞ。

() ウ () ア () イ () オ () エ

13 次の例文の——線部の助詞と同じ働きをするものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- 例 君にこの問題が解けるといふのか。 ※反語
- ア あなたはどこの学校の生徒ですか。
- イ 僕たちといっしょに野球をしないか。
- ウ 時間がないのに、こんなにのんびりしているのか。
- エ 次の日曜日に、みんなで公園の掃除をしませんか。

() ウ

か	あの人ほだれですか。	疑問
	君はこれでもいいのか。	反語
	君もいっしょに行かないか。	勧誘
	とうとう優勝したのか。	感動
よ	杉浦さんなら、さつき帰ったよ。	告知
	もう起きる時間ですよ。	強調
	みんな、がんばろうよ。	勧誘
さ	彼はきつと来るさ。	断定
	まあ、それでもいいさ。	軽く言い放つことを表す
	これは変な話だぞ。	強調
ぞ	もちろん、行くとも。	強い言い切り
とも	この映画はよかったなあ。	感動
なあ	夕焼けがきれいだな。	感動
な	やっぱりよかつたんだな。	軽い断定
	遅いから早く寝な。	軽い命令
	廊下を走るな。	禁止
ね	君は、それでいいのだね。	念押し
の	あなたはもう終わったの。	疑問
	彼はきつと来ると思うの。	断定
わ	海の水がとてもきれいだよ。	感動
	これで終わりましたわ。	やわらかい断定
かしら	この服似合うかしら。	疑問
や	こんな遊びつまらないや。	軽く言い放つことを表す

V 類義語・対義語・多義語

学習のねらい

◇ 類義語・対義語・多義語を身につけ、言葉の幅を広げる。

(一) 類義語

・類義語……似た意味をもつ語のグループ

・表す内容は同じですが、語感や意味に微妙な違いがあります。

例 端 || 隅 || 縁

中心 || 中央 || 真ん中

昨年 || 去年

対比 || 比較

長所 || 美点

裂く || 破る

気絶 || 卒倒
あける || ひらく

(二) 対義語

・対義語……意味が反対の関係や対の関係にある二語

・どのような観点で対比するかによって、対応する語が変わります。

例 上 ⇄ 下

表 ⇄ 裏

甘口 ⇄ 辛口

消極 ⇄ 積極

一般 ⇄ 特殊

義務 ⇄ 権利

貸す ⇄ 借りる

高い ⇄ 低い

兄 ⇄ 弟
姉 ⇄ 妹

(三) 多義語

・多義語……一つの語で多くの意味や用法をもつ語

・多義語の意味は、使われている文脈から判断できます。

例 ・さんまのうまい季節(味がよい)

・歌がうまい。(上手である)

・うまい話に乗せられる。(都合のよい)

・魚をとる。(捕獲する)

・人の物をとる。(盗む)

・責任をとる。(引き受ける)

・新聞をとる。(注文する)

・宿をとる。(予約する)

学習を確かめよう



1 例にならって、次の言葉の類義語、対義語を書きなさい。

例 理由 || 原因(類義語) 想像 ⇄ 模倣(対義語)

(1) 基礎 || () 基本 () (2) 用意 || () 準備 ()

(3) シャベる || () 話す () (4) ひねる || () 回す ()

(5) 公 ⇄ () 私 () (6) 難 ⇄ () 易 ()

(7) 直接 ⇄ () 間接 () (8) 興奮 ⇄ () 冷静 ()

(9) 栄える ⇄ () 衰える () (10) 温かい ⇄ () 冷たい ()

2 次の二つの類義語が——線部に両方とも当てはまる場合は◎を、片方のみ当てはまる場合は、当てはまる方の語句を書きなさい。

(1) 「なぐる」「たたく」

・棒で () ◎ ()

・太鼓を () たたく ()

・ボクサーが挑戦者を () なぐる ()

(2) 「閉じる」「しめる」

・使っていた辞書を () 閉じる ()

・開いているドアを () ◎ ()

・帯を () しめる ()

3 次の語の対義語を書きなさい。

(1) 陸 — () 海 — () 空 — ()

(2) 右上 — () 右下 — () 左上 — () 左下 — ()

4 次の多義語の意味・用法に当てはまるものを記号で答えなさい。

指を紙できる。 ()

・トランプをきる。 ()

・応募者が百人をきる。 ()

・洗った野菜の水分をきる。 ()

ア 下回る () ウ 取り除く ()

イ 傷つける () エ 混ぜ合わせる ()



類義語・対義語・多義語 練習問題

VI 敬語

一 敬語

私たちが話をするときや文章を書くとき、聞き手や読み手などに対して敬う気持ちを表す言葉を敬語といいます。敬語は、相手への心遣いを表す言葉です。敬語を使うことは、堅苦しいことではなく、人と人との間をスムーズに結ぶための大切な心構えです。

(一) 丁寧語

丁寧語……話し手（書き手）が聞き手（読み手）に対して丁寧さを表す敬語。

例 ・僕は中学生だ。 ↓僕は中学生です。

・今から彼女が歌う。 ↓今から彼女が歌います。

・まだ時間がある。 ↓まだ時間がございます。

① 助動詞（断定）「だ」を「です」に言い換える。

給食だ。 ↓給食です。

② 助動詞（丁寧）「ます」を付ける。

六時に起きる。 ↓六時に起きます。

③ 特別に丁寧な言い方「で」「ございます」を用いる。

これが注文の品よ。 ↓これが注文の品でございます。

美化語

誰に対する敬意でもなく、話し手（書き手）が、自分自身の言葉を美しく表現するものを「美化語」という。

例 お風呂 お箸 お菓子 ご飯 ごちそう

学習のねらい

◇ 敬語の働きや種類を知り、敬語を自分のものにしてよう。

学習を確かめよう

① 線部の言葉を言い換えて、丁寧語を使った表現にしなさい。

(1) それは、私の思い出の写真だ。

(それは、私の思い出の写真です。)

(2) 吾輩は猫である。

(吾輩は猫でございます。 / 吾輩は猫です。)

② 次の文を丁寧語を使った表現に直しなさい。

(1) 昨日、水族館に行った。

(昨日、水族館に行きました。)

(2) 彼はそこであの人と出会ったのだろう。

(彼はそこであの人と出会ったのでしよう。)

(3) 今日のカレーは、激辛だった。

(今日のカレーは、激辛でした。)

(4) 今、北海道に住んでいる。

(今、北海道に住んでいます。)

(5) みんなで一緒に歌おう。

(みんなで一緒に歌いましょう。)

(6) ある日、吹雪で外出できなかつた。

(ある日、吹雪で外出できませんでした。)



敬語 詳しい説明(動画)

(二) 尊敬語

尊敬語……話題の中の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語。

- 例
- ・あの人は、二時に来る。↓あの方は、二時にいらっしゃる。
 - ・先生が本を読む。↓先生が本をお読みになる。
 - ・君は、そう思うのだね。↓あなたは、そう思われるのですね。
 - ・客から届いた手紙がある。↓お客様から届いたお手紙がございます。

敬意を表す人やその人の動作・様子・所有物などを直接高めめます。

① 動詞(敬語動詞)に置き換える。

- | | | |
|-------|---|---------------|
| 行く・来る | ↓ | いらっしゃる・おいでになる |
| いる | ↓ | いらっしゃる・おいでになる |
| 言う・話す | ↓ | おっしゃる |
| 見る | ↓ | ご覧になる |
| 食べる | ↓ | 召し上がる |
| する | ↓ | なさる |
| くれる | ↓ | くださる |
- ※到着する↓到着なさる
※呼んでくれる↓呼んでくださる

② 「お(ご)・御(ご)になる」を付け加える。

- | | | | | | | |
|----|---|--------|---|------|---|--------|
| 聞く | ↓ | お聞きになる | ↓ | 疲れる | ↓ | お疲れになる |
| 思う | ↓ | お思いになる | ↓ | 利用する | ↓ | ご利用になる |

③ 助動詞(尊敬)「れる・られる」を付ける。

- | | | | | | | |
|-----|---|-------|---|------|---|-------|
| 思う | ↓ | 思われる | ↓ | 上達する | ↓ | 上達される |
| 起きる | ↓ | 起きられる | ↓ | 受ける | ↓ | 受けられる |
| 来る | ↓ | 来られる | ↓ | | ↓ | |

④ 敬意を表す接頭語・接尾語を付ける。

- | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----------------|
| お宅 | 御社 | 御案内 | 貴校 | 尊父 | (○○からの)お手紙・ご意見 |
| 鈴木様 | 姉さん | 田中君 | | | (※宛名↓)会社 御中 |

⑤ 名詞

- | | | |
|-------|-----|-----|
| 方(かた) | あなた | どなた |
|-------|-----|-----|

動詞全般に使える形

学習を確かめよう

① 線部の言葉を言い換えて、尊敬語を使った表現に直しなさい。

- 先生の言うとおりで。
(おっしゃる(言われる))
- 今日は、家にいますか。
(いらっしゃい(おいでになり))
- 校長先生は、もう帰りました。
(お帰りになり(帰られ))

② 次の文を尊敬語を使った表現に直しなさい。

- 社長が来る。
(社長が いらっしゃる(おいでになる)(来られる))
- 何を食べますか。
(何を 召し上がり(お食べになり)(食べられ)ますか)
- 八木先生が、分かりやすく説明した。
(八木先生が、分かりやすく 説明なさった(説明された))

練習問題に取り組もう

③ 次の文を正しい敬語を用いた表現に直しなさい。

- 習字の先生が、私の作品を拝見する。
(習字の先生が、私の作品を ご覧になる。
×敬語を重ねすぎている)
- 客がダイナーをお召し上がりになられる。
(お客様が ダイナーを 召し上がる)
- 加藤は、家族様とゴルフをしますか。
(加藤さんは、ご家族と ゴルフを なさい(され) ますか。
×「なさる」の連用形「なさり」のイ音便
×「する」の未然形「さ」+助動詞「れる」の連用形「れ」)

(三) 謙譲語

謙譲語……話し手（書き手）自身がへりくだることによって、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語。

例 夕食を食べる。↓夕食をいただく。

- ・今すぐに行きます。↓今すぐに参ります。
- ・先生に学級日誌を渡す。↓先生に学級日誌をお渡しする。
- ・この本を借ります。↓この本をお借りします。

謙譲語は、自分の所有物や行動、身近なものに対して使われます。

① 動詞（敬語動詞）に置き換える。

行く・来る	↓	伺う・参る
いる	↓	おる
言う・話す	↓	申す・申し上げる
見る	↓	拝見する
食べる	↓	いただく
もらう	↓	いただく
する	↓	いたします
聞く	↓	伺う・承る
知る・思う	↓	存じる
やる	↓	あげる・差し上げる

② 「お（ご）御（ぎょ）」を付け加える。

持つ ↓ お持ちする 説明する ↓ ご説明する

届ける ↓ お届けする

③ 謙譲の意を表す接頭語・接尾語を付ける。

粗品 拙宅 弊社 寸志 愚見

（〇〇様への）お手紙 〇〇意見

私ども 私め

× お父さんは家にいません。

○ 父は、家におりません。

謙譲語の中には、丁寧語の「ます」をつけて使われ、聞き手への敬意を表すものとして「丁寧語」とすることもある。

（例）
参ります おります
申します いたします
存じます

身内（自分の家族、同僚）のことを他の人と言う場合には、謙譲語を使います。

学習を確かめよう

① 線部の言葉を言い換えて、謙譲語を使った表現に直しなさい。

- 校長先生から、賞状をもらいました。
（校長先生から、賞状を いただきました ました。）
- もう少し詳しくお話を聞きたい。
（もう少し詳しくお話を 伺い（承り）たい。）
- 早速、お宅へ行きます。
（早速、お宅へ 伺い（参り）ます。）
- バスの中で、先生に会いました。
（バスの中で、先生に お会いし ました。）

② 次の文の——線部を、謙譲語を使った表現に直しなさい。

- 家臣が、お殿様に「おれは、ここにいる。」と言った。
（家臣が、お殿様に「私め（私）は、ここにおります。」と申し上げた。）
- 説明したので、後日、連絡します。
（ご説明し（説明いたし）たいので、後日、連絡し（ご連絡し）ます。）

練習問題に取り組みよう

③ 次の文を正しい表現になるように直しなさい。

- 明日のパーティーでは、弊社のみなさんに、御社の社長の佐藤が、日頃の礼をおつしやいます。
（明日のパーティーでは、御社のみなさんに、弊社の社長の佐藤が、日頃のお礼を申し上げます。）
- おじいさんが、先生の話をお聞きになりたいそうです。
（祖父が、先生のお話を 伺い（承り）（お聞きし）たいそうです。）
- 花に水をあげる。
（花に水を やる。 ×花に敬語を用いない）

① 次の文章の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

この仮説を検証するために、私たちはクマゼミの卵がどれぐらいの低温に耐えられるかを実験してみた。その結果、なんと氷点下二十一度^①に一日置いても、大部分が生き延びることがわかった。^②

次に、長く続く寒さへの耐性を調べた。観測史上、大阪市の一か月の平均気温が零度を下回ったことはない。そこで、それより低い氷点下五度^③に三十日間置いてみたが、特に影響は見られなかった。^④

(沼田英治「クマゼミ増加の原因を探る」)

① サ行変格	活用	② 下一段	活用	③ サ行変格	活用	④ 五段	活用
⑤ 上一段	活用	⑥ 五段	活用	⑦ 五段	活用	⑧ 下一段	活用
⑨ 五段	活用	⑩ 上一段	活用				

② 次の文章の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

私は医者^①に、昔のように走ることはできないだろうと言われた。足の傷は治り^②、半年で固定も取れるが、腕はいつ治るかわからないと言われた。今でもつづいている腕が痛むときがある。^③

① 連体形	② 未然形	③ 未然形	④ 連用形	⑤ 終止形
⑥ 未然形	⑦ 連用形	⑧ 連体形	⑨ 連体形	⑩ 終止形

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

父は七十歳の夏になくなった。^①父の思い出として印象的なのは、小学校の夏休みに二人だけで行ったドライブである。お弁当と冷たい飲み物を持って、山道を車で上がっていく。^②そして、木陰にビニールシートを敷いて、私は読書し、父はのんびり食事を始める。お金をかけた旅行より、父の気まぐれで突然行ったこのドライブは、夏の光と同じように私の心に鮮明によみがえってくる。^③

父がいなくなった今、この思い出は私の宝物だ。

(編集委員による書き下ろし)

(1) ①～⑥の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

① 五段	活用	連用形	② 五段	活用	終止形
③ サ行変格	活用	連用形	④ 下一段	活用	連用形
⑤ カ行変格	活用	終止形	⑥ 上一段	活用	未然形

(2) ①～⑥の動詞の中で補助動詞(形式動詞)であるものを二つ見つけ、番号で答えなさい。

(3) ①～⑥の動詞の中で複合動詞であるものを一つ見つけ、番号で答えなさい。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

君たちはモアイを知っているだろうか。それは、人間の顔を彫った巨大な石像であり、大きなものでは高さ二十メートル、重さ八十トンにも達する。モアイは、南太平洋の絶海の孤島イースター島にある。イースター島は、日本の種子島の半分にも満たない大きさの火山島だ。この小さな島で、これまでに千体近いモアイが発見されている。いったいこの膨大な数の巨像を誰が作り、あれほど大きな像をどうやって運んだのか。また、あるときを境として、この巨像モアイは突然作られなくなる。いったい何があったのか。モアイを作った文明はどうなってしまったのだろうか。実は、この絶海の孤島で起きた出来事は、私たちの住む地球の未来を考えるうえで、とても大きな問題を投げかけているのである。これまでにわかってきたイースター島の歴史について述べながら、モアイの秘密に迫っていききたい。

(安田喜憲「モアイは語る——地球の未来」)

(1) — 線①を文節に分け、その数を漢数字で書きなさい。(四)

(2) — 線②を単語に分けるといくつになるか、漢数字で書きなさい。(十)

(3) 文章中に一つ形容詞があります。それを抜き出して書きなさい。

形容詞 (近い)

(4) 線ア、イ、ウの中から形容動詞を一つ選び、記号で答えなさい。(ウ)

(5) — 線③～⑦動詞の活用の種類と活用形をそれぞれ書きなさい。

③	(上二段)	活用	(連用)	形
④	(下二段)	活用	(連体)	形
⑤	(五段)	活用	(終止)	形
⑥	(カ行変格)	活用	(連用)	形
⑦	(下二段)	活用	(連用)	形

⑤ 次の各組の——線部のうち、例文の助詞と同じ働きをするものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 例 昨日、試合を見に行_レった。

ア 明日は十時に寝よう。
ウ 祖父に会いに出かける。

イ 塩を溶かして食塩水にする。
エ 母に注意される。

(ウ)

(2) 例 僕の書いた作文が入選した。

ア 雨の降る日が多くなる。
ウ 階段の手すりにつかまる。

イ 部屋に風鈴の音が響く。
エ 仲良くするのはいいことだ。

(ア)

(3) 例 声が大きくて耳が痛い。

ア 駅まで走っていく。
ウ この公園は広くて、静かだ。
エ 今日の夕食は多すぎて食べきれない。

イ 別の方法を試してみる。

(エ)

(4) 例 みなさんもいっしょに参加しませんか。

ア 公園で弁当を食べようか。
ウ この方法でよいのだろうか。

イ これは正解ですか。
エ ついにここまで来たのか。

(ア)

(5) 例 昔の友達に手紙を書いた。

ア 毎朝七時に家を出ます。
ウ 美しい星空を眺める。

イ 交差点を人が横切った。
エ 今、駅を出発した。

(ウ)

⑥ 次の例文の——線部の助動詞と同じ働きをするものをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 例 私は失敗して友達からよく笑われる。

ア この単語はすぐに覚えられる。
イ あの海を見ると、故郷が思い出される。
ウ 今度の連休でおばさんが来られる。
エ 大切なことを友人から教えられる。

(エ)

(2) 例 明日も早く起きようと思う。

ア きつと苦しかっただろうと思う。
イ がんばって練習しようと思った。
ウ みんなも歌ってみようと呼びかけた。
エ この会はきつと成功するだろう。

(イ)

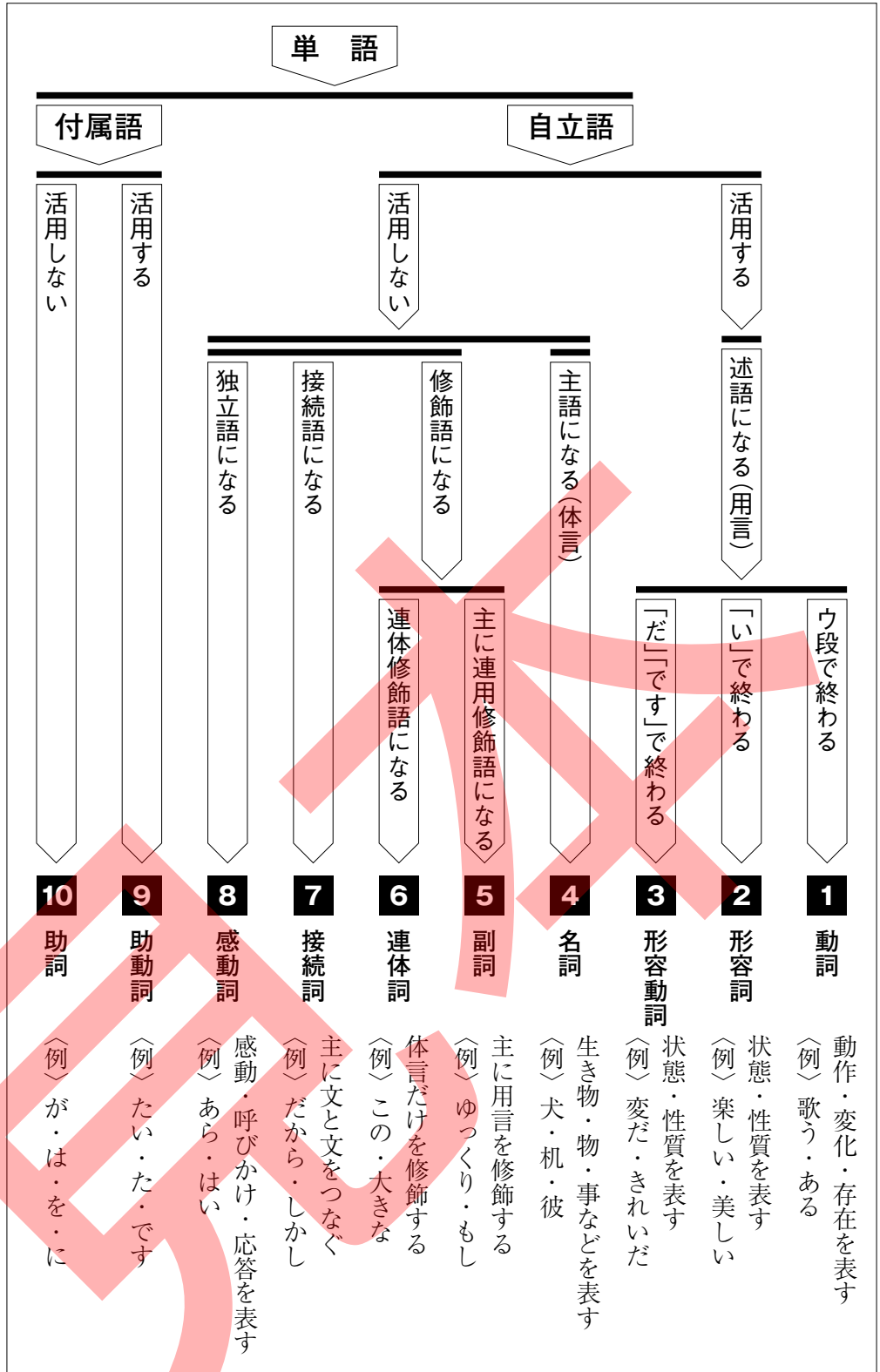
⑦ 次の——線部のうち、助動詞でないものを全て選び、記号で答えなさい。

ア 僕の教科書です。
ウ この川はとてもきれいだ。
オ どうやら家に帰つたらしい。
キ 僕には自信がない。

イ ここが教室だ。
エ 彼はとても男らしい。
カ 間食は取らない。

(ウ・エ・キ)

◎品詞分類表（口語）：文法上の性質によって単語を分類した表



困ったときには、
この表を思い出し
ましょう。



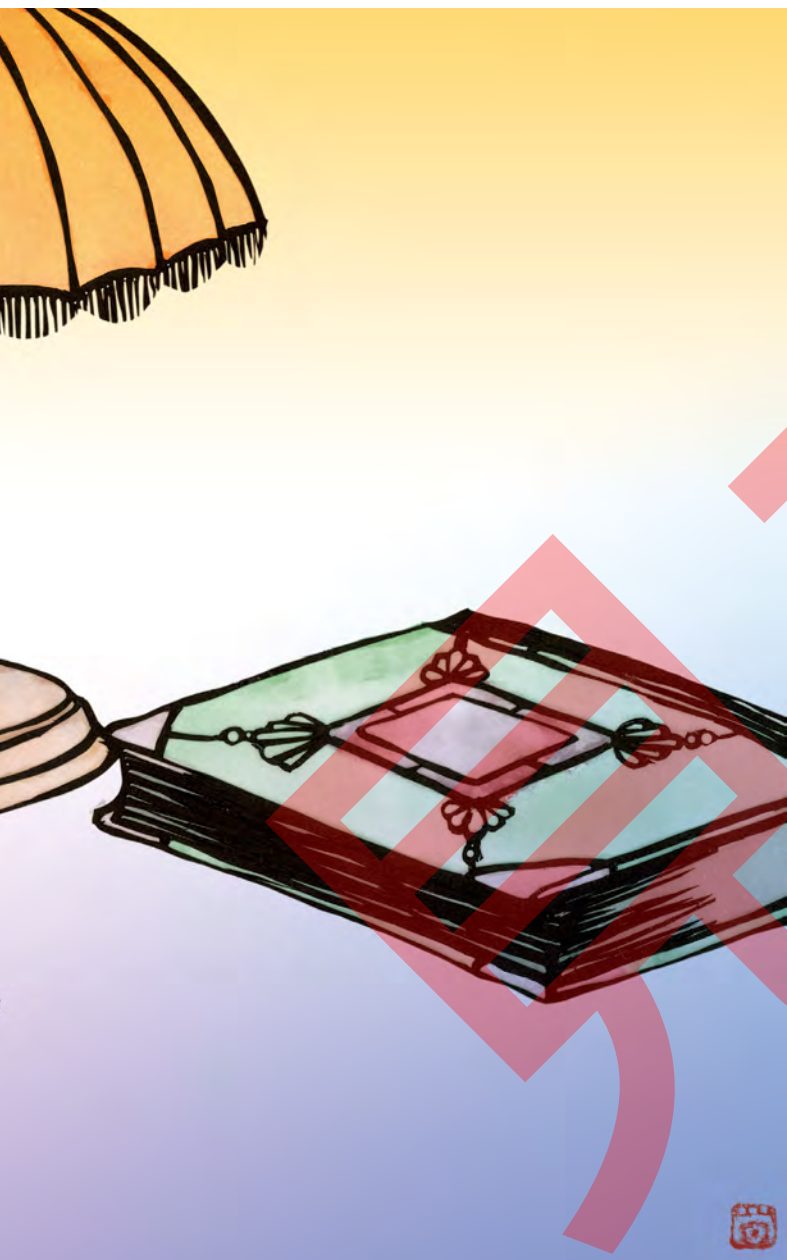
令和6年度版 ことばのきまり 中学2年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 (0564) 51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。



赤木

2年 組 番

氏名
